工　　種	共通編　自由勾配側溝（プレキャスト）

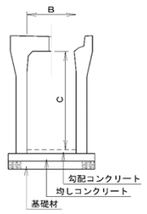
改 正 理 由	土木用コンクリート製品設計便覧の改定に伴い修正する 市場性に合わせた規格設定と、仕様を補足する	改　正 現　行	

現　　行

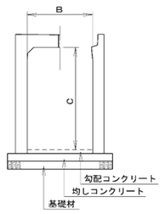
⑬ 改　共ーⅠ－10

名称	自由勾配側溝（プレキャスト）	工種記号	FU

300,400,500,600タイプ



800,1000タイプ



呼び名	寸法 B	寸法 C	製品長 L
300 × 400	300	400	2500
〃 × 600		600	
〃 × 800		800	
400 × 500	400	500	
〃 × 700		700	
〃 × 900		900	
500 × 600	500	600	
〃 × 800		800	
〃 × 1000		1000	
600 × 700	600	700	
〃 × 900		900	
〃 × 1100		1100	
800 × 900	800	900	2000
〃 × 1100		1100	
〃 × 1300		1300	
1000 × 1100	1000	1100	
〃 × 1300		1300	
〃 × 1500		1500	

〔適用条件〕

1. 一般車両（T-25「後輪１軸荷重100kN」）を考慮する箇所に使用する。
2. 現地の地形及び状況を考慮し、１．の条件箇所以外にも必要に応じて使用する。
3. 蓋はコンクリート蓋（プレキャスト）を標準とする。

〔仕　　様〕

1. 構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧（共－６）」による。
これによれない場合は協議事項とする。
2. 現場で使用するコンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

規　　格	呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
勾配コンクリート	18	8cm又は12cm	25mm	65%以下	高炉セメント（B種）
均しコンクリート	18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	65%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

3. 基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
4. 基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕（5～10cm）をもたせる。
5. 目地はモルタル接合または同等以上の止水性材料による接合とする。
6. 埋戻しは、十分締固めを行う。

〔設計表示例〕

ＦＵ－Ｂ（　）－Ｃ（　）－ℓ（　）　　Ｌ＝（　）ｍ
溝幅　深さ　製品長　　設計延長

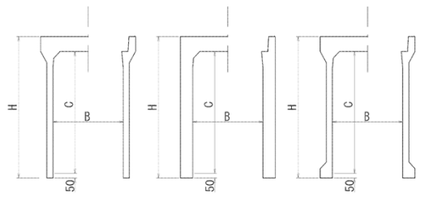
表示例

ＦＵ－Ｂ300－Ｃ800－ℓ2500　　Ｌ＝100ｍ

改　　正

⑲ 改　共ーⅠ－10

名称	自由勾配側溝（プレキャスト）	工種記号	FU



・図は模式図であり、形状は問わない。

単位(mm)

呼び名	寸法 B	寸法 h	製品長 L
300 × 400	300	400	2000
〃 × 600		600	
〃 × 800		800	
400 × 500	400	500	
〃 × 700		700	
〃 × 900		900	
500 × 600	500	600	
〃 × 800		800	
〃 × 1000		1000	
600 × 700	600	700	
〃 × 900		900	
〃 × 1100		1100	
800 × 900	800	900	
〃 × 1100		1100	
〃 × 1300		1300	
1000 × 1100	1000	1100	
〃 × 1300		1300	
〃 × 1500		1500	

〔適用条件〕

1. 一般車両（T-25「後輪１軸荷重100kN」）を考慮する箇所に使用する。
2. 現地の地形及び状況を考慮し、１．の条件箇所以外にも必要に応じて使用する。
3. 蓋はコンクリート蓋（プレキャスト）を標準とする。

〔仕　　様〕

1. 構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧（共－６）」による。
これによれない場合は協議事項とする。
2. 現場で使用するコンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

規　　格	呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
勾配コンクリート	18	8cm又は12cm	25mm	65%以下	高炉セメント（B種）
均しコンクリート	18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	65%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

3. 基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
4. 基礎材及び均しコンクリートの厚さはそれぞれ10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕（5～10cm）をもたせる。
5. 目地はモルタル接合または同等以上の止水性材料による接合とする。
6. 埋戻しは、十分締固めを行う。
7. 勾配コンクリートは最小5cmを確保する。

〔設計表示例〕

ＦＵ－Ｂ（　）－ｈ（　）－ℓ2000　　Ｌ＝（　）ｍ
溝幅　深さ　　設計延長

表示例

ＦＵ－Ｂ300－ｈ800－ℓ2000　　Ｌ＝100ｍ

備　　考

意見NO.2
意見NO.3
意見NO.40

積算上の注意事項	

（控え頁）

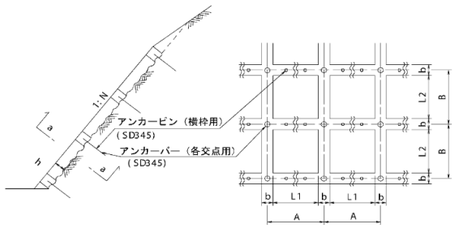
工　　種	共通編　吹付法枠

改正理由	枠内排水方式について仕様を補足し、中詰めに応じた図を追加する	改正 現行	

現行

(15) 改　共ーV－2

名称	吹　付　法　枠	工種記号	CF



注）（ ）内の数値は300A, Bを示す。　注）（ ）内の数値は500A, B, Cを示す。

表-1

呼び名	断面 タテ(h)×ヨコ(b)	スパン長 ヨコ(A)×タテ(B)	鉄筋 梁部材	鉄筋 アンカーバー	鉄筋 アンカーピン
CF-200 A	200×200	1200×1200	4-D10	D16, ℓ=400	D10, ℓ=200～400
B		1500×1200			
CF-300 A	300×300	1500×1500	4-D13	D19, ℓ=400～600	D13, ℓ=300～500
B		2000×1500			
CF-400 A	400×400	2000×2000	8-D13	D19, ℓ=500～800	D13, ℓ=400～600
B		2500×2000			
CF-500 A	500×500	2500×2500	8-D16	D19, ℓ=600～1000	D16, ℓ=500～700
B		3000×2500			
C		3000×3000			

〔適用条件〕

1. 長大な法面や風化しやすい軟岩、あるいは節理や亀裂の多い硬岩からなる切土法面などで、整形の困難な凹凸の多い場合に適用する。
2. コンクリート(モルタル)吹付工では長期的な安定に不安がある場合に適用する。

〔仕　様〕

1. 吹付法枠工の設計は、「のり枠工の設計・施工指針（(社)全国特定法面保護協会）」、「フリーフレーム工法設計・施工の手引き(フリーフレーム協会)」によるものとする。
2. 構造規格は、当図を標準とする。ただし、施工性、経済性等を勘案し決定する。
3. 枠及びスパン長は、現場条件に応じて表-1から適宜選定する。
4. 枠吹付材料はモルタルを標準とするが、枠幅が広く、吹付材の飛散による支障がない場合はコンクリートを使用することができる。
   なお、枠吹付材料配合規格は、下表を標準とする。

(m³当り)

材料／工種	水セメント比	セメント	砂	砕石	摘要
モルタル	45～60%以下	400kg以上	※	—	普通ポルトランドセメント
コンクリート	45～60%以下	400kg以上	※	※	普通ポルトランドセメント

※ 細骨材(砂)及び粗骨材(砕石)は所定の強度を得られるように配合するものとする。

5. 梁部材の鉄筋、アンカーピン・アンカーバーはSD345を使用する。
6. 枠部材の交点に施工するアンカーバー等は、地山の状況に応じて適宜決定する。また、必要によりアンカーピンを横枠に設置する。
7. 吹付モルタル(または吹付コンクリート)の強度は、現場で作成した供試体で $\sigma_{28}=18N/mm^2$ 以上必要とする。
8. 枠内の中詰めは、客土吹付、植生基材吹付、緑化土のうを標準とする。
9. 枠内の風化が激しい場合には、モルタル吹付、コンクリート吹付を使うことができる。その際は、ラス(ワイヤーラス φ2mm網目50×50mm)を枠内全面に張る。
10. 施工は法面の整形、清掃を十分に行い、地山に十分密着させる。
11. 吹付直後のコテ仕上げは行わないことを標準とする。
12. 枠内の排水は、パイプ方式を標準とする。

〔設計表示方法〕

CF －（ ）×（ ）－（ ）×（ ）－（ ）－N（ ）　A ＝（ ）m²
（断面）（スパン長）（中詰材）（前面勾配）（設計面積）

表示例

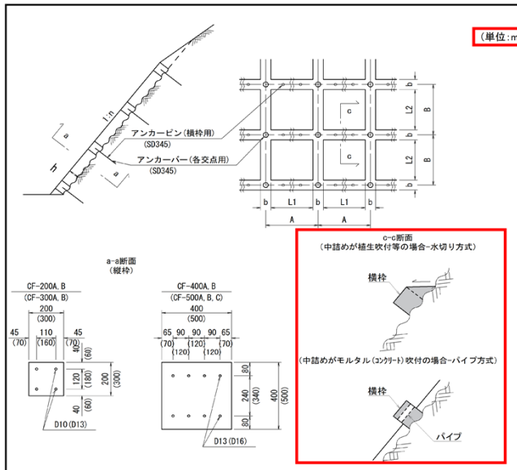
CF － 300×300 － 1500×1500 －緑化土のう－ N 0.7　A ＝ 1000 m²

改正

(19) 改　共ーV－2

名称	吹　付　法　枠	工種記号	CF

（単位：mm）



注）（ ）内の数値は300A, Bを示す。　注）（ ）内の数値は500A, B, Cを示す。

表-1

呼び名	断面 タテ(h)×ヨコ(b)	スパン長 ヨコ(A)×タテ(B)	鉄筋 梁部材	鉄筋 アンカーバー	鉄筋 アンカーピン
CF-200 A	200×200	1200×1200	4-D10	D16, ℓ=400	D10, ℓ=200～400
B		1500×1200			
CF-300 A	300×300	1500×1500	4-D13	D19, ℓ=400～600	D13, ℓ=300～500
B		2000×1500			
CF-400 A	400×400	2000×2000	8-D13	D19, ℓ=500～800	D13, ℓ=400～600
B		2500×2000			
CF-500 A	500×500	2500×2500	8-D16	D19, ℓ=600～1000	D16, ℓ=500～700
B		3000×2500			
C		3000×3000			

〔適用条件〕

1. 長大な法面や風化しやすい軟岩、あるいは節理や亀裂の多い硬岩からなる切土法面などで、整形の困難な凹凸の多い場合に適用する。
2. コンクリート(モルタル)吹付工では長期的な安定に不安がある場合に適用する。

〔仕　様〕

1. 吹付法枠工の設計は、「のり枠工の設計・施工指針（(社)全国特定法面保護協会）」、「フリーフレーム工法設計・施工の手引き(フリーフレーム協会)」によるものとする。
2. 構造規格は、当図を標準とする。ただし、施工性、経済性等を勘案し決定する。
3. 枠及びスパン長は、現場条件に応じて表-1から適宜選定する。
4. 枠吹付材料はモルタルを標準とするが、枠幅が広く、吹付材の飛散による支障がない場合はコンクリートを使用することができる。
   なお、枠吹付材料配合規格は、下表を標準とする。

(m³当り)

材料／工種	水セメント比	セメント	砂	砕石	摘要
モルタル	45～60%以下	400kg以上	※	—	普通ポルトランドセメント
コンクリート	45～60%以下	400kg以上	※	※	普通ポルトランドセメント

※ 細骨材(砂)及び粗骨材(砕石)は所定の強度を得られるように配合するものとする。

5. 梁部材の鉄筋、アンカーピン・アンカーバーはSD345を使用する。
6. 枠部材の交点に施工するアンカーバー等は、地山の状況に応じて適宜決定する。また、必要によりアンカーピンを横枠に設置する。
7. 吹付モルタル(または吹付コンクリート)の強度は、現場で作成した供試体で $\sigma_{28}=18N/mm^2$ 以上必要とする。
8. 枠内の中詰めは、客土吹付、植生基材吹付、緑化土のうを標準とする。
9. 枠内の風化が激しい場合には、モルタル吹付、コンクリート吹付を使うことができる。その際は、ラス(ワイヤーラス φ2mm網目50×50mm)を枠内全面に張る。
10. 施工は法面の整形、清掃を十分に行い、地山に十分密着させる。
11. 吹付直後のコテ仕上げは行わないことを標準とする。
12. 枠内の排水は、中詰め工が植生吹付等の場合は水切り方式、モルタル等の場合はパイプ方式とする。

〔設計表示方法〕

CF －（ ）×（ ）－（ ）×（ ）－（ ）－N（ ）　A ＝（ ）m²
（断面）（スパン長）（中詰材）（前面勾配）（設計面積）

表示例

CF － 300×300 － 1500×1500 －緑化土のう－ N 0.7　A ＝ 1000 m²

備考

意見NO.9

意見NO.38
（以下、対象工種）
・素掘側溝
・自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・集水桝・街渠桝
・アーチボックスカルバート
・吹付法枠
・境界標
・電線共同溝(CCBOX)
・円形落差工
・管理橋
・L型側溝
・縁石
・ｱｽﾌｧﾙﾄｶｰﾌﾞ及び集・排水
・地下排水
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
・歩道用ガードパイプ
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
・歩道用ｺﾝｸﾘｰﾄ防護柵(RC)
・ｺﾝｸﾘｰﾄ壁型防護柵
・落石防止柵
・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1～3
・片持型標識(F2)その1～6
・伸縮継手(V型)
・橋梁用排水装置(その1～2)
・車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
・車道用高欄(ｺﾝｸﾘｰﾄ製)
・飛雪防止柵
・落下物防止網
・橋梁下部工検査路
・橋梁上部工検査路
・鋼製雪崩予防柵30°（その1～2）
・鋼製雪崩予防柵35°（その1～2）
・鋼製雪崩予防柵40°（その1～2）
・鋼製雪崩予防柵45°（その1～2）
・PC雪崩予防柵(その1)
・鋼製雪崩予防柵
・PC雪崩防護柵
・PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
・PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
・鋼製せり出し防止柵
・PCせり出し防護柵
・地吹雪防止柵
・路側流雪溝
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
・消雪用ポンプ室(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
・融雪舗装版
・情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
・光ケーブル用埋設鋲
・中央帯工

積算上の注意事項	

（控え頁）

工　　種	共通編　電線共同溝(CCBOX)

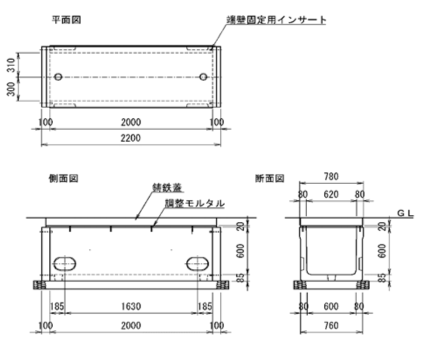
改 正 理 由	基準図書を更新する	改　正 / 現　行	

現　　　　行

⑬ 改　共－Ⅷ－3

名称	電線共同溝（ＣＣＢＯＸ）	工種記号	CCBX

高圧分岐桝（ＮＫＢ）６００×６００×２０００ の 例



種　別	タイプ	記号 種別	記号 タイプ	規　格	適　要
分岐接続部Ⅰ型	標準	BK1	1型	1200×1500×2200	
	車道分岐		2型	1200×1500×2200	
分岐接続部Ⅱ型	標準	BK2	1型	950×1500×3000	
	車道分岐		2型	950×1500×3000	
電力高圧分岐部Ⅱ型		KB2		850×1500×2200	
電力高圧接続部Ⅱ型	CVT325以下	KS	1型	1000×1800×3100	東北電力対応
	CVT400以下				北陸電力対応
	CVT150以下		2型	1000×1800×2600	
	CVT60以下		3型	1000×1800×2200	
電力地上機器部Ⅱ型	タイプ1	TT	1型	1060×1500×2200	東北電力対応
	タイプ2		2型	1000×1500×3400	東北電力対応
	タイプ3		3型	1060×1500×4200	東北電力対応
	タイプ4		4型	1000×1500×4900	東北電力対応
	タイプ5		5型	1000×1500×5200	機器塔近接設置タイプ
電力地上機器部Ⅱ型	タイプ1	TH	1型	1060×1500×2200	北陸電力対応
	タイプ2		2型	1000×1500×3400	北陸電力対応
	タイプ3		3型	1060×1500×4200	北陸電力対応
	タイプ4		4型	1000×1500×4900	北陸電力対応
鉄蓋調整リング	分岐接続部用	CR	1型	φ750	
	分岐接続部Ⅰ型角蓋用		2型	850×1500	
	電力高圧分岐部用				
	電力地上機器Ⅱ型用		3型		
機器塔調整リング	電力地上機器Ⅱ型用		4型		
地上機器台座	電力地上機器Ⅱ型用		5型		北陸電力対応
分岐接続部Ⅰ型角型床版	各蓋850×1500用	BKS			
分岐桝		BM		400×500×1000	
簡易トラフ		KT		400×500×2000	
小型トラフ	直線部用	NKT	S2000	300×150×2000	
			S1000	300×150×1000	
	曲線部用		R1000	300×150×1000	R=5.0m対応
低圧分岐桝		NTB		400×500×1000	
高圧分岐桝		NKB		600×600×2000	
柱体接続桝		NKS		400×600×1000	
横断桝		NOD		600×1000×1200	
通信接続桝		NTS		550×1050×2000	
特殊部Ⅱ型	通信基点用	NT2	1型	950×1500×2200	
特殊部Ⅱ型	通信横断用		2型	950×1500×2200	

機器塔調整リングは各電力会社対応品を別途使用する。
構造図は電線共同溝マニュアル改訂版（H16.10 国土交通省北陸地方整備局）による

〔適用条件〕
1. 道路下に埋設する電線共同溝の特殊部のハンドホールとして使用する。
2. 電線共同溝は可能な限り歩道等(歩道、自転車歩行者道、自転車道等)に設置するものとし、既設占有物件の位置、電線の引き込み等を考慮して配置を計画するものとする。
3. 活荷重は原則として床版には5.0kN/㎡の等分布荷重、側壁は245kNとする。

〔仕　様〕
1. 構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧(共－36)」および「電線共同溝マニュアル(案)改訂版(H16.10 国土交通省北陸地方整備局)」による。ただし、収容物の関係などから旧タイプを使用する場合は、「電線共同溝マニュアル(案)(H12. 10 建設省北陸地方建設局)」による。
2. 基礎材は、再生砕石(RC－40)を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
3. 一体構造製品の基礎材の厚さは15～20cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。
4. 連結して一体構造とする製品や車道部内に設置される製品には、基礎材とコンクリート基礎版「土木用コンクリート製品設計便覧(共－40)」を用いる。
5. 特殊部には必要に応じ、排水対策を施す。
6. 特殊部は水平に据え付けるものとし、車道乗入部や歩道切り下げ部への設置は避ける。
7. 埋戻しには所定の材料を用い、十分締固めを行う。

〔設計表示方法〕

1. 設計箇所数で表示する方法

ＣＣＢＸ － （　） － （　）　　Ｎ＝（　）
（種別）（タイプ）（設計箇所数）

表示例
ＣＣＢＸ－ＴＴ－１型　　Ｎ＝５箇所
ＣＣＢＸ－ＮＫＢ　　Ｎ＝５箇所

2. 設計延長で表示する方法（小型トラフ）

ＣＣＢＸ － （　） － （　）　　Ｌ＝（　）
（種別）（タイプ）（設計延長）

表示例
ＣＣＢＸ－ＮＫＴ－Ｓ2000　　Ｌ＝50m

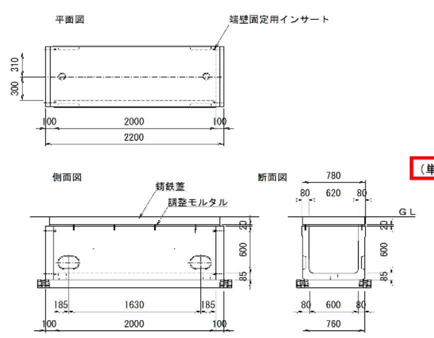
改　　　　正

⑲ 改　共－Ⅷ－3

名称	電線共同溝（ＣＣＢＯＸ）	工種記号	CCBX

高圧分岐桝（ＮＫＢ）６００×６００×２０００ の 例

（単位：mm）



種　別	タイプ	記号 種別	記号 タイプ	規　格	適　要
分岐接続部Ⅰ型	標準	BK1	1型	1200×1500×2200	
	車道分岐		2型	1200×1500×2200	
分岐接続部Ⅱ型	標準	BK2	1型	950×1500×3000	
	車道分岐		2型	950×1500×3000	
電力高圧分岐部Ⅱ型		KB2		850×1500×2200	
電力高圧接続部Ⅱ型	CVT325以下	KS	1型	1000×1800×3100	東北電力対応
	CVT400以下				北陸電力対応
	CVT150以下		2型	1000×1800×2600	
	CVT60以下		3型	1000×1800×2200	
電力地上機器部Ⅱ型	タイプ1	TT	1型	1060×1500×2200	東北電力対応
	タイプ2		2型	1000×1500×3400	東北電力対応
	タイプ3		3型	1060×1500×4200	東北電力対応
	タイプ4		4型	1000×1500×4900	東北電力対応
	タイプ5		5型	1000×1500×5200	機器塔近接設置タイプ
電力地上機器部Ⅱ型	タイプ1	TH	1型	1060×1500×2200	北陸電力対応
	タイプ2		2型	1000×1500×3400	北陸電力対応
	タイプ3		3型	1060×1500×4200	北陸電力対応
	タイプ4		4型	1000×1500×4900	北陸電力対応
鉄蓋調整リング	分岐接続部用	CR	1型	φ750	
	分岐接続部Ⅰ型角蓋用		2型	850×1500	
	電力高圧分岐部用				
	電力地上機器Ⅱ型用		3型		
機器塔調整リング	電力地上機器Ⅱ型用		4型		
地上機器台座	電力地上機器Ⅱ型用		5型		北陸電力対応
分岐接続部Ⅰ型角型床版	各蓋850×1500用	BKS			
分岐桝		BM		400×500×1000	
簡易トラフ		KT		400×500×2000	
小型トラフ	直線部用	NKT	S2000	300×150×2000	
			S1000	300×150×1000	
	曲線部用		R1000	300×150×1000	R=5.0m対応
低圧分岐桝		NTB		400×500×1000	
高圧分岐桝		NKB		600×600×2000	
柱体接続桝		NKS		400×600×1000	
横断桝		NOD		600×1000×1200	
通信接続桝		NTS		550×1050×2000	
特殊部Ⅱ型	通信基点用	NT2	1型	950×1500×2200	
特殊部Ⅱ型	通信横断用		2型	950×1500×2200	

機器塔調整リングは各電力会社対応品を別途使用する。
構造図は電線共同溝マニュアル改訂版（H16.10 国土交通省北陸地方整備局）による

〔適用条件〕
1. 道路下に埋設する電線共同溝の特殊部のハンドホールとして使用する。
2. 電線共同溝は可能な限り歩道等(歩道、自転車歩行者道、自転車道等)に設置するものとし、既設占有物件の位置、電線の引き込み等を考慮して配置を計画するものとする。
3. 活荷重は原則として床版には5.0kN/㎡の等分布荷重、側壁は245kNとする。

〔仕　様〕
1. 構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧(共－36)」および「電線共同溝(技術)マニュアル(案)改訂案 H27.10(一部改訂)北陸地方無電柱化協議会」による。ただし、収容物の関係などから旧タイプを使用する場合は、「電線共同溝マニュアル(案)(H12. 10 建設省北陸地方建設局)」による。
2. 基礎材は、再生砕石(RC－40)を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
3. 一体構造製品の基礎材の厚さは15～20cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。
4. 連結して一体構造とする製品や車道部内に設置される製品には、基礎材とコンクリート基礎版「土木用コンクリート製品設計便覧(共－40)」を用いる。
5. 特殊部には必要に応じ、排水対策を施す。
6. 特殊部は水平に据え付けるものとし、車道乗入部や歩道切り下げ部への設置は避ける。
7. 埋戻しには所定の材料を用い、十分締固めを行う。

〔設計表示方法〕

1. 設計箇所数で表示する方法

ＣＣＢＸ － （　） － （　）　　Ｎ＝（　）
（種別）（タイプ）（設計箇所数）

表示例
ＣＣＢＸ－ＴＴ－１型　　Ｎ＝５箇所
ＣＣＢＸ－ＮＫＢ　　Ｎ＝５箇所

2. 設計延長で表示する方法（小型トラフ）

ＣＣＢＸ － （　） － （　）　　Ｌ＝（　）
（種別）（タイプ）（設計延長）

表示例
ＣＣＢＸ－ＮＫＴ－Ｓ2000　　Ｌ＝50m

備　　考

意見NO.15

意見NO.38
(以下、対象工種)
・素掘側溝
・自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・集水桝・街渠桝
・アーチボックスカルバート
・吹付法枠
・境界標
・電線共同溝(CCBOX)
・円形落差工
・管理橋
・L型側溝
・縁石
・ｱｽﾌｧﾙﾄｶｰﾌﾞ及び集・排水
・地下排水
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
・歩道用ガードパイプ
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
・歩道用ｺﾝｸﾘｰﾄ防護柵(RC)
・ｺﾝｸﾘｰﾄ壁型防護柵
・落石防止柵
・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1～3
・片持型標識(F2)その1～6
・伸縮継手(V型)
・橋梁用排水装置(その1～2)
・車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
・車道用高欄(ｺﾝｸﾘｰﾄ製)
・飛雪防止柵
・落下物防止網
・橋梁下部工検査路
・橋梁上部工検査路
・鋼製雪崩予防柵30°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵35°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵40°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵45°(その1～2)
・PC雪崩予防柵(その1)
・鋼製雪崩予防柵
・PC雪崩防護柵
・PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
・PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
・鋼製せり出し防止柵
・PCせり出し防護柵
・地吹雪防止柵
・路側流雪溝
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
・消雪用ポンプ室(プレキャスト)
・消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
・融雪舗装版
・情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
・光ケーブル用埋設鋲
・中央帯工

積算上の注意事項		(控え頁) 1／1

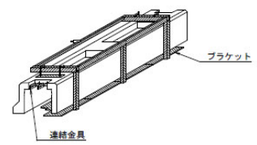
工　　種	河川編　法留工　鋼矢板基礎(V)(プレキャスト)

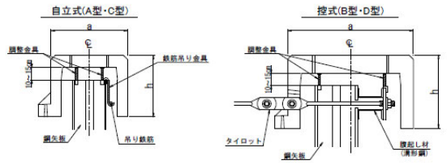
改正理由	土木用コンクリート製品設計便覧に併せて仕様を追加する	改正 現行	

現　行

⑬改　河ーⅠ－2

名称	法留工　鋼矢板基礎(V)(プレキャスト)	工種記号	基－V





注）1.　製品の据付位置は、自立式の場合は製品の中心と鋼矢板の中心に合わせる。控式場合は製品の中心と(鋼矢板・腹起し材)の中心に合わせる。
2.　製品のジョイントは、連結金具をボルト止めする。
3.　製品の高さ調整は、ボルト・調整金具で行う。
4.　ブラケットは、中詰コンクリートの打込み前に、現場でセットする。

笠コンクリート　規格表

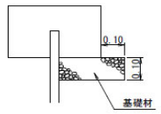
タイプ	寸法 (mm) a	h	L	適応範囲 矢板の種類
A 型	600	500	2396	普通Ⅰ～Ⅲ、広幅Ⅱ
B 型	1000	600	2396	普通Ⅰ～Ⅴ、広幅Ⅱ～Ⅳ
C 型	700	500	2396	普通Ⅰ～Ⅳ、広幅Ⅱ～Ⅳ
D 型	1300	800	2396	普通Ⅰ～Ⅴ、広幅Ⅱ～Ⅳ

諸元表　(製品1個当り)

タイプ	調整ボルト	調整金具	連結金具	連結ボルト	鉄筋吊り金具	吊り鉄筋	目地材	中詰コンクリート
A 型	M20×200 4本	F10～18	M20×160 4本	M20×30 2本	D13×200 2本	D13×2400 1本	0.30㎡/個	0.462㎥
B 型		F 5～18			－	－	0.60㎡/個	0.996㎥
C 型		F10～18			D13×200 2本	D13×2400 1本	0.35㎡/個	0.573㎥
D 型		F 5～18	プレート 2枚	M20×30 2本	－	－	1.04㎡/個	1.800㎥

〔適用条件〕
1.　自立式護岸の法留工はA型・C型を使用するものとし、控式護岸の法留工はB型・D型を使用するものとする。
2.　鋼矢板基礎(V)はプレキャスト製品を標準とする。
3.　鋼矢板の規格、型式は別途検討のこと。
控式(B型・D型)の選定は、使用する鋼矢板・腹起し材(溝形鋼)の寸法とブロックとの間隔を考慮し、B型が使用できない場合にD型を使用するものとする。

〔仕　様〕
1.　構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧(河－2)」による。
2.　基礎構造は次のとおりとする。



3.　目地間隔は21.6m(9本)を標準とし、地形地質等により変形が予想される場合は別途考慮する。
4.　製品の中詰は、専用ブラケットを用い、コンクリート打設とする。
5.　中詰コンクリートの配合規格は下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
21	8cm	25mm	60%以下	高炉セメント(B種)

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

6.　基礎材は、再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。

〔設計表示方法〕

基－V－(　)－(　)　　L＝(　)m・(　)枚
タイプ　矢板の種類　　設計延長　枚数

表示例

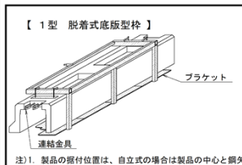
基－V－B型－広幅Ⅱ　L＝ 24 m・ 60 枚

改　正

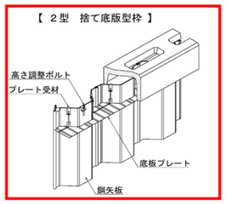
⑲改　河ーⅠ－2

名称	法留工　鋼矢板基礎(V)(プレキャスト)	工種記号	基－V

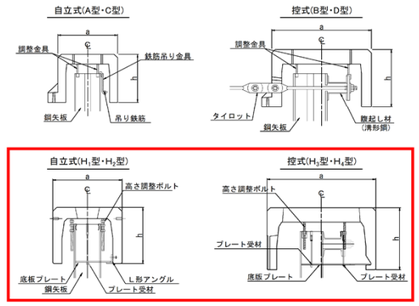
【1型　脱着式底版型枠】



【2型　捨て底版型枠】



注）1.　製品の据付位置は、自立式の場合は製品の中心と鋼矢板の中心に合わせる。控式の場合は製品の中心と(鋼矢板・腹起し材)の中心に合わせる。
2.　A型～D型における製品のジョイントは、連結金具をボルト止めする。
3.　製品の高さ調整は、ボルト・調整金具で行う。
4.　ブラケットまたは底板プレートは、中詰コンクリートの打込み前に現場でセットする。

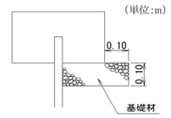


規格寸法表

タイプ	寸法 (mm) a	h	L	適用範囲 矢板の種類	型枠の種類
A 型	600	500	2396	普通Ⅰ～Ⅲ、広幅Ⅱ	1型・2型
B 型	1000	600	2396	普通Ⅰ～Ⅲ、広幅Ⅱ～Ⅲ	
C 型	700	500	2396	普通Ⅲ₁～Ⅳ₁、広幅Ⅱ～Ⅳ	
D 型	1300	800	2396	普通Ⅰ～Ⅳ₁、広幅Ⅱ～Ⅳ	
H_1 型	600	500	2694	ハット形　10H	2型
H_2 型	700	500	2694	ハット形　25H, 45H, 50H	
H_3 型	1100	650	1796	ハット形　10H, 25H	
H_4 型	1100	850	1796	ハット形　10H, 25H	

〔適用条件〕
1.　自立式護岸の法留工はA型・C型、H_1型・H_3型を使用するものとし、控式護岸の法留工はB型・D型、H_2型・H_4型を使用するものとする。
2.　型枠は前面の水位に応じて選定する。
3.　鋼矢板基礎(V)はプレキャスト製品を標準とする。
4.　鋼矢板の規格、型式は別途検討のこと。
控式(B型・D型、H_2型・H_4型)の選定は、使用する鋼矢板・腹起し材(溝形鋼)の寸法とブロックとの間隔を考慮し、B型が使用できない場合にD型を使用するものとする。

〔仕　様〕
1.　構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧(河－2)」による。
2.　基礎構造は次のとおりとする。



3.　目地間隔は21.6mを標準とし、地形地質等により変形が予想される場合は別途考慮する。
4.　【1型　脱着式底版型枠】製品の中詰は、専用ブラケットを用い、コンクリート打設とする。
【2型　捨て底版型枠】　製品の中詰は、底版パネル、パネル受け材を用い、コンクリート打設とする。
5.　中詰コンクリートの配合規格は下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
21	8cm	25mm	60%以下	高炉セメント(B種)

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

6.　基礎材は、再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。

〔設計表示方法〕

基－V(　)－(　)－(　)　　L＝(　)m・(　)枚
型枠の種別　タイプ　矢板の種類　　設計延長　枚数

表示例

基－V1－B型－広幅Ⅱ　L＝ 24 m・ 60 枚

備　考

意見NO.17

積算上の注意事項

(控え頁)

工　　種	道路編　L型側溝

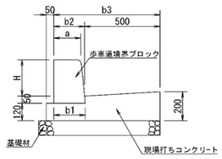
改正理由	縁高を明確にすると共に、市場に合わせた仕様を追加する	改正 / 現行	

現　行

⑬改　道－Ⅰ－1

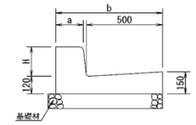
名称	L 形 側 溝	工種記号	La～Ld

a 種



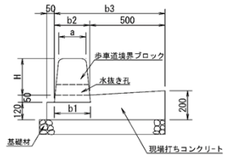
呼び名	寸法 (mm)				
	H	a	b1	b2	b3
La-15	150	150	170	165	665
La-20	200	180	205	200	700
La-25	250	180	210	205	705

b 種



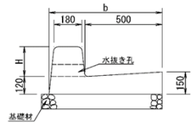
呼び名	寸法 (mm)		
	H	a	b
Lb-15	150	150	665
Lb-20	200	180	700
Lb-25	250	180	705

c 種



呼び名	寸法 (mm)				
	H	a	b1	b2	b3
Lc-15	150	150	190	185	685
Lc-20	200	180	230	225	725
Lc-25	250	180	240	235	735

d 種



呼び名	寸法 (mm)	
	H	b
Ld-15	150	722
Ld-20	200	732
Ld-25	250	742

〔適用条件〕

1. 主として歩車道境界、又は中央分離帯、路肩等に設置する。
2. a種・c種(現場打ち)、b種・d種(プレキャスト)の選定は省力化、工期、片側供用などを勘案し決定する。
3. 縁高Hは、原則として15cm（中央分離帯は25cm）とする。
4. 水抜きが必要な場合は、水抜き孔を設けることとする。

〔仕　様〕

1. 構造規格は、JIS A 5371、5372及び「土木用コンクリート製品設計便覧(道－1)」による。
2. a種・c種のブロック、b種・d種の製品長は、2.0mを標準とする。
3. 現場打ちコンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

4. 基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分な締固めを行う。
5. 基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。
6. ブロック・L型の継目はモルタル接合(5～10mm)または同等以上の止水性材料による接合とする。
7. 場所打ち部については約10m間隔に目地を設け、厚さ10mm程度の瀝青繊維質目地板を使用する。

〔設計表示方法〕

L（ ）－（ ）－ ℓ（ ）　L＝（ ）m
a,b,c,d種別　縁高　製品長　設計延長

表示例

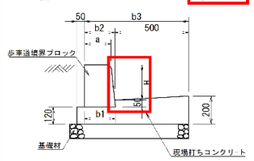
L c － 150 － ℓ 2000　L＝ 24 m

改　正

⑲改　道－Ⅰ－1

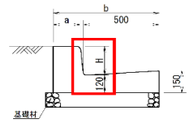
名称	L 形 側 溝	工種記号	La～Ld

a 種　（単位：mm）



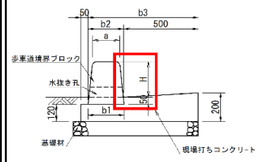
呼び名	寸法 (mm)				
	H	a	b1	b2	b3
La-15	150	150	170	165	665
La-20	200	180	205	200	700
La-25	250	180	210	205	705

b 種



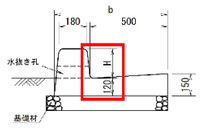
呼び名	寸法 (mm)		
	H	a	b
Lb-15	150	150	665
Lb-20	200	180	700
Lb-25	250	180	705

c 種



呼び名	寸法 (mm)				
	H	a	b1	b2	b3
Lc-15	150	150	190	185	685
Lc-20	200	180	230	225	725
Lc-25	250	180	240	235	735

d 種



呼び名	寸法 (mm)	
	H	b
Ld-15	150	722
Ld-20	200	732
Ld-25	250	742

〔適用条件〕

1. 主として歩車道境界、又は中央分離帯、路肩等に設置する。
2. a種・c種(現場打ち)、b種・d種(プレキャスト)の選定は省力化、工期、片側供用などを勘案し決定する。
3. 縁高Hは、原則として20cm（中央分離帯は25cm）とする。
4. 水抜きが必要な場合は、水抜き孔を設けることとする。

〔仕　様〕

1. 構造規格は、JIS A 5371、5372及び「土木用コンクリート製品設計便覧(道－1)」による。
2. a種・c種のブロック、b種・d種の製品長は、2.0mを標準とする。
3. 現場打ちコンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

4. 基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分な締固めを行う。
5. 基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。
6. ブロック・L型の継目はモルタル接合(5～10mm)または同等以上の止水性材料による接合とする。
7. 場所打ち部については約10m間隔に目地を設け、厚さ10mm程度の瀝青繊維質目地板を使用する。
8. 歩道部に防草効果を求める際にはブロックに切込みを設けることができる。

〔設計表示方法〕

L（ ）－（ ）－ ℓ（ ）　L＝（ ）m
a,b,c,d種別　縁高　製品長　設計延長

表示例

L c － 150 － ℓ 2000　L＝ 24 m

備　考

意見NO.20
意見NO.41

意見NO.38
(以下、対象工種)

・素掘側溝
・自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・集水桝・街渠桝
・アーチボックスカルバート
・吹付法枠
・境界標
・電線共同溝(CCBOX)
・円形落差工
・管理橋
・L型側溝
・縁石
・アスファルトカーブ及び集・排水
・地下排水
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
・歩道用ガードパイプ
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
・歩道用コンクリート防護柵(RC)
・コンクリート壁型防護柵
・落石防止柵
・コンクリート舗装
・インターロッキングﾌﾞﾛｯｸ舗装
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1～3
・片持型標識(F2)その1～6
・伸縮継手(Ｖ型)
・橋梁用排水装置(その1～2)
・車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
・車道用高欄(ｺﾝｸﾘｰﾄ製)
・飛雪防止柵
・落下物防止網
・橋梁下部工検査路
・橋梁上部工検査路
・鋼製雪崩予防柵30°（その1～2)
・鋼製雪崩予防柵35°（その1～2)
・鋼製雪崩予防柵40°（その1～2)
・鋼製雪崩予防柵45°（その1～2)
・PC雪崩予防柵(その1)
・鋼製雪崩予防柵
・PC雪崩防護柵
・PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
・PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
・鋼製せり出し防止柵
・PCせり出し防護柵
・地吹雪防止柵
・路側流雪溝
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
・消雪用ポンプ室(プレキャスト)
・消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
・融雪舗装版
・情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
・光ケーブル用埋設鋲
・中央帯工

積算上の注意事項	

（控え頁）

工　　種	道路編　縁石

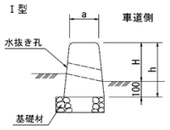
改正理由	設計ミスの防止に向けて図を修正し、市場に合わせた仕様を追加する	改正 / 現行	

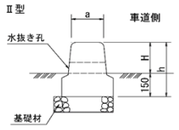
現　行

⑬ 改　道－Ⅰ－2

名称	縁　石	工種記号	Fa～Fc

a種 縁 石

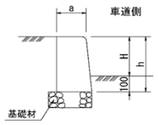




呼び名	寸法 (mm) H	a	h	摘要
Fa－15	150	180	250	JIS A 5371
Fa－20	200	180	300	JIS A 5371
Fa－25	250	180	350	

呼び名	寸法 (mm) H	a	h	摘要
Fa-20(Ⅱ)	200	200	350	

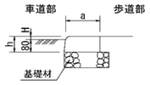
b種 縁 石



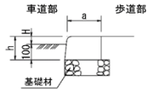
呼び名	寸法 (mm) H	a	h	摘要
Fb－20	200	180	300	JIS A 5371
Fb－25	250	180	350	

c種 縁 石

横断歩道部(H=20)



乗入れ部(H=50)



呼び名	寸法 (mm) H	a	h	摘要
Fc－2	20	210	100	
Fc－5	50	210	150	

〔適用条件〕

1. a種は、歩道等の歩車道境界に設置する。
2. b種は、歩道等の歩車道境界又は中央分離帯等に設置する。
3. c種は、歩道等の横断歩道部及び乗入れ部に設置する。
4. 歩道等の一般部の縁高Hは、20cmを標準とする。また、横断歩道部は2cm、乗入れ部は5cmを標準とする。
5. 水抜きが必要な場合は、水抜き孔を設けることとする。

〔仕　様〕

1. 構造規格は、JIS A 5371及び「土木用コンクリート製品設計便覧(道－2)」による。
2. 歩車道境界ブロックの製品長は、a種、b種で2.0m、c種で1.0mを標準とする。
3. 基礎材は再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分な締固めを行う。
4. 基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。
5. ブロックの継目はモルタル接合(5～10mm)または同等以上の止水性材料による接合とする。

〔留意事項〕

1. 「歩道等」とは、歩道及び自転車歩行車道、自転車道を総称する呼び名である。
2. 歩道等は、セミフラットを標準とする。また、トンネル部はマウンドアップを標準とする。
3. 歩道等の縁石は、横断歩道部及び乗入れ部等を含めて連続させることとする。

〔設計表示方法〕

F（　）－　（　）－　ℓ（　）　　L＝（　）m

a,b,c種別　縁高　製品長　設計延長

（注）a種のみⅠ型・Ⅱ型

表示例

Fa・Ⅰ型－　250　－ℓ 2000　　L＝ 24　m

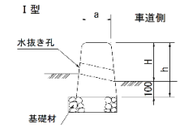
改　正

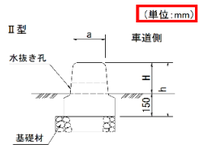
⑲ 改　道－Ⅰ－2

名称	縁　石	工種記号	Fa～Fc

a種 縁 石

（単位：mm）

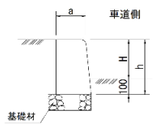




呼び名	寸法 (mm) H	a	h	摘要
Fa－15	150	180	250	JIS A 5371
Fa－20	200	180	300	JIS A 5371
Fa－25	250	180	350	

呼び名	寸法 (mm) H	a	h	摘要
Fa-20(Ⅱ)	200	200	350	

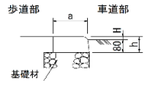
b種 縁 石



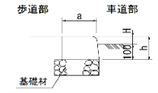
呼び名	寸法 (mm) H	a	h	摘要
Fb－20	200	180	300	JIS A 5371
Fb－25	250	180	350	

c種 縁 石

横断歩道部(H=20)



乗入れ部(H=50)



呼び名	寸法 (mm) H	a	h	摘要
Fc－2	20	210	100	
Fc－5	50	210	150	

〔適用条件〕

1. a種は、歩道等の歩車道境界に設置する。
2. b種は、歩道等の歩車道境界又は中央分離帯等に設置する。
3. c種は、歩道等の横断歩道部及び乗入れ部に設置する。
4. 歩道等の一般部の縁高Hは、20cmを標準とする。また、横断歩道部は2cm、乗入れ部は5cmを標準とする。
5. 水抜きが必要な場合は、水抜き孔を設けることとする。

〔仕　様〕

1. 構造規格は、JIS A 5371及び「土木用コンクリート製品設計便覧(道－2)」による。
2. 歩車道境界ブロックの製品長は、a種、b種で2.0m、c種で1.0mを標準とする。
3. 基礎材は再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分な締固めを行う。
4. 基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。
5. ブロックの継目はモルタル接合(5～10mm)または同等以上の止水性材料による接合とする。
6. 歩道部に防草効果を求める際にはブロックに切込みを設けることができる。

〔留意事項〕

1. 「歩道等」とは、歩道及び自転車歩行車道、自転車道を総称する呼び名である。
2. 歩道等は、セミフラットを標準とする。また、トンネル部はマウンドアップを標準とする。
3. 歩道等の縁石は、横断歩道部及び乗入れ部等を含めて連続させることとする。

〔設計表示方法〕

F（　）－　（　）－　ℓ（　）　　L＝（　）m

a,b,c種別　縁高　製品長　設計延長

（注）a種のみⅠ型・Ⅱ型

表示例

Fa・Ⅰ型－　250　－ℓ 2000　　L＝ 24　m

備　考

意見NO.20
意見NO.22

意見NO.38
(以下、対象工種)

・素掘側溝
・自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・集水桝・街渠桝
・アーチボックスカルバート
・吹付法枠
・境界標
・電線共同溝(CCBOX)
・円形落差工
・管理橋
・L型側溝
・縁石
・アスファルトカーブ及び集・排水
・地下排水
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
・歩道用ガードパイプ
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
・歩道用コンクリート防護柵(RC)
・コンクリート壁型防護柵
・落石防止柵
・コンクリート舗装
・インターロッキングﾌﾞﾛｯｸ舗装
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1～3
・片持型標識(F2)その1～6
・伸縮継手(Ｖ型)
・橋梁用排水装置(その1～2)
・車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
・車道用高欄(ｺﾝｸﾘｰﾄ製)
・飛雪防止柵
・落下物防止網
・橋梁下部工検査路
・橋梁上部工検査路
・鋼製雪崩予防柵30°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵35°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵40°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵45°(その1～2)
・PC雪崩予防柵(その1)
・鋼製雪崩予防柵
・PC雪崩防護柵
・PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
・PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
・鋼製せり出し防止柵
・PCせり出し防護柵
・地吹雪防止柵
・路側流雪溝
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
・消雪用ポンプ室(プレキャスト)
・消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
・融雪舗装版
・情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
・光ケーブル用埋設鋲
・中央帯工

積算上の注意事項

(控え頁)

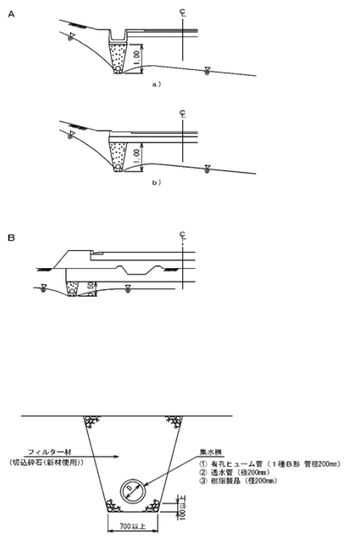
工　　種	道路編　地下排水

改 正 理 由	フィルター材について指針との整合を図るとともに基準図書を更新し、誤字を修正する	改　正 現　行	

現　　行

道－Ⅰ－4

名称	地　下　排　水	工種記号	UDA～UDB



〔適用条件〕

1. 路盤、路体等に地下水が浸透し、道路に悪影響を及ぼすおそれのある場合に設置する。
   設置位置の検討は「道路土工－排水工指針((社)日本道路協会)」による。
2. 構造は下記による。
   A　a)・・・排水溝の下に設ける場合
   　　b)・・・L型側溝又は路盤の下に設ける場合
   B　・・・・・・・・路床入換の下部に設ける場合

〔仕　　様〕

1. 集水管は、有孔ヒューム管(1種B形管、φ200)、透水管(φ200)、樹脂製品(φ200)から適宜選定する。
2. フィルター材は原則として切込砕石(新材使用)を用いて、締固めを行う。
3. 流末処理は地下排水の機能低下にならないよう十分配慮する。
4. 地下水等の状況、設置位置等を勘案し、当図を適用しない場合は「道路土工－排水工指針」により別途図示する。

〔設計表示方法〕

埋設深さ、管種に応じ下記の呼び名を用いて表示する。

埋設深さ	管　　種
A＝1.0m	①有孔ヒューム管（1種B形管） ②透水管 ③樹脂管
B＝0.5m	

UD（　）－（　）　　L＝（　）m
A,Bの別　管種　設計延長

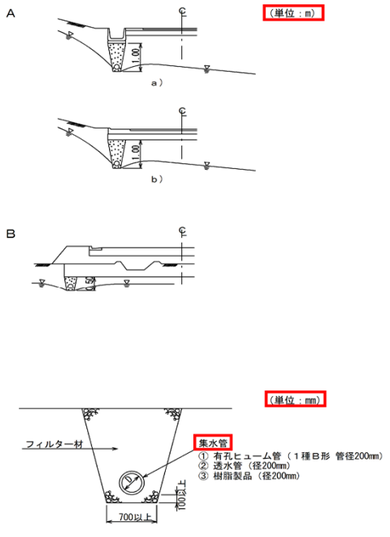
表示例

UD A－①　　L＝50.0 m

改　　正

19 改　道－Ⅰ－4

名称	地　下　排　水	工種記号	UDA～UDB



〔適用条件〕

1. 路盤、路床等に地下水が浸透し、道路に悪影響を及ぼすおそれのある場合に設置する。
   設置位置の検討は「道路土工要綱((社)日本道路協会)」による。
2. 構造は下記による。
   A　a)・・・排水溝の下に設ける場合
   　　b)・・・L型側溝又は路盤の下に設ける場合
   B　・・・・・・・・路床入換の下部に設ける場合

〔仕　　様〕

1. 集水管は、有孔ヒューム管(1種B形管、φ200)、透水管(φ200)、樹脂製品(φ200)から適宜選定する。
2. フィルター材は透水性が大きく、かつ粒度配合の良い材料を用いて、締固めを行う。
3. 流末処理は地下排水の機能低下にならないよう十分配慮する。
4. 地下水等の状況、設置位置等を勘案し、当図を適用しない場合は「道路土工要綱((社)日本道路協会)」により別途図示する。

〔設計表示方法〕

埋設深さ、管種に応じ下記の呼び名を用いて表示する。

埋設深さ	管　　種
A＝1.0m	①有孔ヒューム管（1種B形管） ②透水管 ③樹脂管
B＝0.5m	

UD（　）－（　）　　L＝（　）m
A,Bの別　管種　設計延長

表示例

UD A－①　　L＝50.0 m

備　　考

意見NO.23
意見NO.42
意見NO.47
意見NO.49

意見NO.38
(以下、対象工種)
・素掘側溝
・自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・集水桝・街渠桝
・ｱｰﾁﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ
・吹付法枠
・境界標
・電線共同溝(CCBOX)
・円形落差工
・管理橋
・L型側溝
・縁石
・ｱｽﾌｧﾙﾄｶｰﾌﾞ及び集・排水
・地下排水
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
・歩道用ガードパイプ
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
・歩道用ｺﾝｸﾘｰﾄ防護柵(RC)
・ｺﾝｸﾘｰﾄ壁型防護柵
・落石防止柵
・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
・インターロッキングﾌﾞﾛｯｸ舗装
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1～3
・片持型標識(F2)その1～6
・伸縮継手(Ｖ型)
・橋梁用排水装置(その1～2)
・車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
・車道用高欄(ｺﾝｸﾘｰﾄ製)
・飛雪防止柵
・落下物防止網
・橋梁下部工検査路
・橋梁上部工検査路
・鋼製雪崩予防柵30°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵35°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵40°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵45°(その1～2)
・PC雪崩予防柵(その1)
・鋼製雪崩予防柵
・PC雪崩防護柵
・PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
・PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
・鋼製せり出し防止柵
・PCせり出し防護柵
・地吹雪防止柵
・路側流雪溝
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
・消雪用ポンプ室(プレキャスト)
・消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
・融雪舗装版
・情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
・光ケーブル用埋設鋲
・中央帯工

積算上の注意事項	

（控え頁）

工　　種	道路編　中央帯工

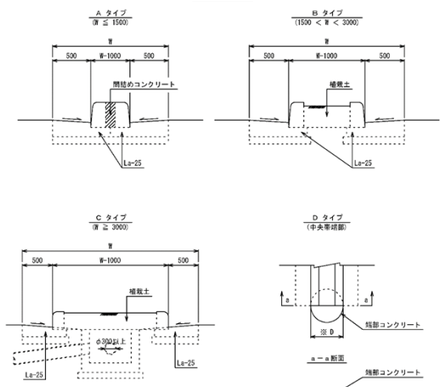
改 正 理 由	防草コンクリートとする場合の仕様を追加する	改　正 / 現　行	

現　　行

03 改　道－Ⅸ－1

名称	中　央　帯　工	工種記号	CSA～CSD

中央帯標準図



中央排水工とは
① 中央ドレーン方式
中央管渠(φ300)により集約し、流末にて排水する方式
② 横断ドレーン方式
中央帯に集約し、横断管渠にて適宜排水する方式

※D ＜ 1.0 m までは、場所打ちコンクリート
D ≧ 1.0 m は、境界ブロックによる。

〔仕　　様〕

1. 構造は、当図を標準とする。
2. Aタイプはコンクリートで間詰めする。B, Cタイプは植栽土で盛土する。
3. 間詰めコンクリート及び端部コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上表配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

4. 植栽土の厚さは概ね 30cm 程度とする。ただし、植栽する樹木の種類等を勘案し植栽土の厚さを適宜決定する。その場合は設計で明示する。
5. 植栽土は境界ブロック天端より 2cm 程度下げる。
6. 基礎材の厚さは 10cm 程度とし、施工幅は施工に必要な余裕（5～10cm）をもたせる。
7. 基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。

〔設計表示方法〕

CS（　）－（　）　　W＝（　）m　　L＝（　）m
種別　植栽土の厚さ　中央帯幅員　設計延長

表示例

CS B － 30　　W＝ 1.5 m　　L＝ 100.0 m

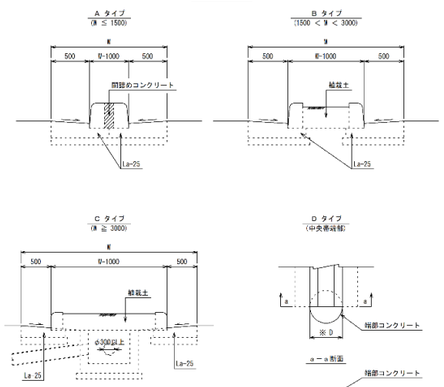
改　　正

19 改　道－Ⅸ－1

名称	中　央　帯　工	工種記号	CSA～CSD

（単位：mm）

中央帯標準図



中央排水工とは
① 中央ドレーン方式
中央管渠(φ300)により集約し、流末にて排水する方式
② 横断ドレーン方式
中央帯に集約し、横断管渠にて適宜排水する方式

※D ＜ 1.0 m までは、場所打ちコンクリート
D ≧ 1.0 m は、境界ブロックによる。

〔仕　　様〕

1. 構造は、当図を標準とする。
2. Aタイプはコンクリートで間詰めする。B, Cタイプは植栽土で盛土する。
3. 間詰めコンクリート及び端部コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上表配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

4. 植栽土の厚さは概ね 30cm 程度とする。ただし、植栽する樹木の種類等を勘案し植栽土の厚さを適宜決定する。その場合は設計で明示する。
5. 植栽土は境界ブロック天端より 2cm 程度下げる。
6. 基礎材の厚さは 10cm 程度とし、施工幅は施工に必要な余裕（5～10cm）をもたせる。
7. 基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
8. 中央帯を防草コンクリートとする場合は厚さ10cmとする。

〔設計表示方法〕

CS（　）－（　）　　W＝（　）m　　L＝（　）m
種別　植栽土の厚さ　中央帯幅員　設計延長

表示例

CS B － 30　　W＝ 1.5 m　　L＝ 100.0 m

備　　考

意見NO.26

意見NO.38
(以下、対象工種)
・素掘側溝
・自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・集水桝・街渠桝
・アーチボックスカルバート
・吹付法枠
・境界標
・電線共同溝(CCBOX)
・円形落差工
・管理橋
・L型側溝
・縁石
・ｱｽﾌｧﾙﾄｶｰﾌﾞ及び集・排水
・地下排水
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
・歩道用ガードパイプ
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
・歩道用コンクリート防護柵(RC)
・コンクリート壁型防護柵
・落石防止柵
・コンクリート舗装
・インターロッキングﾌﾞﾛｯｸ舗装
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1～3
・片持型標識(F2)その1～6
・伸縮継手(Ｖ型)
・橋梁用排水装置(その1～2)
・車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
・車道用高欄(コンクリート製)
・飛雪防止柵
・落下物防止網
・橋梁下部工検査路
・橋梁上部工検査路
・鋼製雪崩予防柵30°（その1～2)
・鋼製雪崩予防柵35°（その1～2)
・鋼製雪崩予防柵40°（その1～2)
・鋼製雪崩予防柵45°（その1～2)
・PC雪崩予防柵(その1)
・鋼製雪崩予防柵
・PC雪崩防護柵
・PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
・PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
・鋼製せり出し防止柵
・PCせり出し防護柵
・地吹雪防止柵
・路側流雪溝
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
・消雪用ポンプ室(プレキャスト)
・消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
・融雪舗装版
・情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
・光ケーブル用埋設鋲
・中央帯工

積算上の注意事項	

（控え頁）

改 正 理 由	生産性の向上に向けて、設計・施工の簡素化を図る 長さについて指針との整合を図る	改　正 現　行	

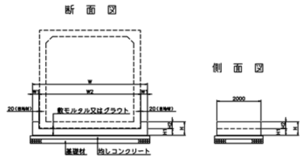
現　行

④改　共－Ⅳ－6

名称	段落ち防止用枕（現場打ち）（その1）	工種記号	－

形 状 図

断 面 図　　側 面 図



PCボックスカルバート用段落ち防止枕　寸法表

土被り	呼び名	枕 規 格 (mm)					
	B×H	W1	W2	W	H1	H2	H
0.5m～3.0m	600×600	300	890	1490	300	155	455
	800×800	300	1090	1690	300	155	455
	1000×1000	300	1290	1890	300	155	455
	1000×1500	300	1290	1890	300	155	455
	1200×1200	300	1490	2090	300	155	455
	1500×1000	300	1840	2440	300	180	480
	1500×1500	300	1840	2440	300	180	480
	1800×1500	300	2140	2740	300	180	480
	1800×1800	300	2140	2740	300	180	480
	2000×1500	300	2340	2940	300	180	480
	2000×2000	300	2340	2940	300	180	480
	2300×1500	400	2700	3500	400	210	610
	2300×2000	400	2700	3500	400	210	610
	2300×2300	400	2700	3500	400	210	610
	2500×1500	400	2900	3700	400	210	610
	2500×2000	400	2900	3700	400	210	610
	2500×2500	400	2940	3740	400	210	610
	2800×1500	400	3240	4040	400	230	630
	2800×2000	400	3240	4040	400	230	630
	2800×2800	400	3240	4040	400	230	630
	3000×1500	400	3440	4240	400	280	680
	3000×2000	400	3440	4240	400	280	680
	3000×2500	400	3440	4240	400	280	680
	3000×3000	400	3540	4340	400	280	680
	3500×2500	500	4040	5040	500	330	830
3.01m～6.0m	600×600	300	890	1490	300	155	455
	800×800	300	1090	1690	300	155	455
	1000×1000	300	1340	1940	300	180	480
	1000×1500	300	1340	1940	300	180	480
	1200×1200	300	1540	2140	300	180	480
	1500×1000	300	1840	2440	300	180	480
	1500×1500	300	1840	2440	300	180	480
	1800×1500	300	2200	2800	300	210	510
	1800×1800	300	2200	2800	300	210	510
	2000×1500	400	2440	3240	400	230	630
	2000×2000	400	2440	3240	400	230	630
	2300×1500	500	2800	3800	500	260	760
	2300×2000	500	2800	3800	500	260	760
	2300×2300	500	2800	3800	500	260	760
	2500×1500	500	3040	4040	500	290	790
	2500×2000	500	3040	4040	500	290	790
	2500×2500	500	3040	4040	500	290	790
	2800×1500	500	3400	4400	500	310	810
	2800×2000	500	3400	4400	500	310	810
	2800×2800	500	3400	4400	500	310	810
	3000×1500	500	3640	4640	500	380	880
	3000×2000	500	3640	4640	500	380	880
	3000×2500	500	3640	4640	500	380	880
	3000×3000	500	3640	4640	500	380	880
	3500×2500	600	4140	5340	600	410	1010

大型ボックスカルバート用段落ち防止枕　寸法表

土被り	呼び名	枕 規 格 (mm)					
	B×H	W1	W2	W	H1	H2	H
1.0m	4000×3000	400	4640	5440	400	330	730
	4000×4000	400	4640	5440	400	330	730
	4000×5000	500	4640	5640	500	330	830
	4500×3000	400	5140	5940	400	330	730
	4500×4000	500	5140	6140	500	330	830
	4500×5000	500	5140	6140	500	330	830
	5000×3000	500	5640	6640	500	330	830
	5000×4000	500	5640	6640	500	330	830
	5000×5000	500	5640	6640	500	330	830
	5500×3000	500	6140	7140	500	330	830
	5500×4000	500	6140	7140	500	330	830
	5500×5000	600	6140	7340	600	330	930
	6000×4000	600	6640	7840	600	330	930
	6000×5000	600	6640	7840	600	380	980
	6500×5000	600	7240	8440	600	430	1030
	6500×6000	600	7340	8540	600	430	1030
	7000×5000	600	7840	9040	600	430	1030
	7000×6000	600	7840	9040	600	430	1030
	7500×5000	600	8340	9540	600	480	1080
	7500×6000	600	8340	9540	600	480	1080
	8000×5000	700	8840	10240	700	480	1180
	8000×6000	700	8840	10240	700	530	1230
	8500×5000	700	9440	10840	700	530	1230
	8500×6000	800	9440	11040	800	530	1330
	9000×5000	700	10040	11440	700	580	1280
	9000×6000	800	10040	11640	800	580	1380
	9500×5000	800	10540	12140	800	580	1380
	9500×6000	800	10540	12140	800	580	1380
	10000×5000	900	11040	12840	900	630	1530
	10000×6000	900	11040	12840	900	630	1530
2.0m	4000×3000	500	4640	5640	500	330	830
	4000×4000	500	4640	5640	500	330	830
	4000×5000	500	4740	5740	500	330	830
	4500×3000	500	5140	6140	500	330	830
	4500×4000	500	5140	6140	500	380	880
	4500×5000	600	5240	6440	600	380	980
	5000×3000	500	5640	6640	500	380	880
	5000×4000	600	5640	6840	600	380	980
	5000×5000	600	5740	6940	600	380	980
	5500×3000	600	6240	7440	600	380	980
	5500×4000	600	6240	7440	600	430	1030
	5500×5000	600	6240	7440	600	430	1030
	6000×4000	600	6740	7940	600	430	1030
	6000×5000	700	6740	8140	700	480	1180
	6500×5000	700	7440	8840	700	530	1230
	6500×6000	700	7440	8840	700	530	1230
	7000×5000	700	7940	9340	700	530	1230
	7000×6000	800	7940	9540	800	580	1380
	7500×5000	800	8440	10040	800	530	1330
	7500×6000	800	8540	10140	800	580	1380
	8000×5000	800	9040	10640	800	580	1380
	8000×6000	900	9040	10840	900	630	1530
	8500×5000	900	9540	11340	900	630	1530
	8500×6000	900	9540	11340	900	680	1580
	9000×5000	900	10040	11840	900	680	1580
	9000×6000	900	10140	11940	900	680	1580
	9500×5000	900	10740	12540	900	730	1630
	9500×6000	1000	10740	12740	1000	730	1730
	10000×5000	1000	11340	13340	1000	830	1830
	10000×6000	1000	11340	13340	1000	830	1830
3.0m	4000×3000	500	4640	5640	500	380	880
	4000×4000	600	4640	5840	600	380	980
	4000×5000	600	4740	5940	600	380	980
	4500×3000	600	5240	6440	600	380	980
	4500×4000	600	5240	6440	600	430	1030
	4500×5000	600	5340	6540	600	430	1030
	5000×3000	600	5740	6940	600	430	1030
	5000×4000	600	5740	6940	600	430	1030
	5000×5000	700	5840	7240	700	480	1180
	5500×3000	700	6340	7740	700	480	1180
	5500×4000	700	6340	7740	700	480	1180
	5500×5000	700	6340	7740	700	480	1180
	6000×4000	800	6840	8440	800	530	1330
	6000×5000	800	6840	8440	800	580	1380
	6500×5000	800	7540	9140	800	580	1380
	6500×6000	800	7540	9140	800	580	1380
	7000×5000	800	8040	9640	800	630	1430
	7000×6000	800	8040	9640	800	630	1430
	7500×5000	900	8540	10340	900	630	1530
	7500×6000	900	8640	10440	900	680	1580
	8000×5000	900	9140	10940	900	680	1580
	8000×6000	900	9140	10940	900	680	1580
	8500×5000	1000	9740	11740	1000	780	1780
	8500×6000	1000	9740	11740	1000	780	1780
	9000×5000	1000	10340	12340	1000	830	1830
	9000×6000	1000	10340	12340	1000	830	1830

〔適用条件〕
1. ボックスカルバート施工後に残留沈下が予想されるような地盤箇所に設ける。
2. 道路下に埋設されるボックスカルバートに使用する。
3. プレキャストボックスカルバートに使用する。

〔仕　様〕
1. 設計、施工および製品の品質・出来形基準は下記による。
①大型プレキャストボックスカルバート設計・施工要領((社)北陸建設弘済会)
②道路土工 カルバート工指針((社)日本道路協会)

2. 均しコンクリート及び枕本体の配合規格は、下表のとおりとする。

規　格	呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
均しコンクリート	18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	65%以下	高炉セメント(B種)
枕　本　体	24	8cm又は12cm	25mm又は40mm	55%以下	高炉セメント(B種)

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

3. 鉄筋はSD345を使用する。

4. 基礎材は再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
なお、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。

5. 基礎材の厚さは20cm程度、均しコンクリートの厚さは10cm程度とする。
ただし、基礎地盤が岩盤の場合は均しコンクリートのみとし、厚さは5～10cm程度とする。

6. 枕の延長は2.0mを標準とする。ただし、これと異なる場合は「道路土工 カルバート工指針」により別途検討する。

RCボックスカルバート用段落ち防止枕　寸法表

土被り	呼び名	枕 規 格 (mm)					
	B×H	W1	W2	W	H1	H2	H
0.5m～1.0m	600×600	300	900	1500	300	160	460
	800×800	300	1100	1700	300	160	460
	1000×1000	300	1300	1900	300	160	460
	1000×1500	300	1300	1900	300	160	460
	1200×1200	300	1500	2100	300	160	460
	1500×1000	300	1820	2420	300	190	490
	1500×1500	300	1820	2420	300	190	490
	1800×1500	300	2140	2740	300	200	500
	1800×1800	300	2140	2740	300	200	500
	2000×1500	300	2360	2960	300	210	510
	2000×2000	300	2360	2960	300	210	510
	2300×2000	400	2700	3500	400	230	630
	2300×2300	400	2700	3500	400	230	630
	2500×2000	400	2940	3740	400	250	650
	2500×2500	400	2940	3740	400	250	650
	2800×2000	400	3280	4080	400	270	670
	2800×2500	400	3280	4080	400	270	670
	3000×2000	400	3520	4320	400	290	690
	3000×2500	400	3520	4320	400	290	690
	3000×3000	400	3520	4320	400	290	690
	3500×2500	500	4040	5040	500	340	840

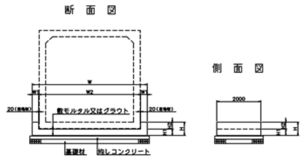
改　正

⑲改　共－Ⅳ－6

名称	段落ち防止用枕（現場打ち）（その1）	工種記号	－

形 状 図

断 面 図　　側 面 図



PCボックスカルバート用段落ち防止枕　寸法表

土被り	呼び名	枕 規 格 (mm)					
	B×H	W1	W2	W	H1	H2	H
0.5m～3.0m	600×600	300	890	1490	300	155	455
	800×800	300	1090	1690	300	155	455
	1000×1000	300	1290	1890	300	155	455
	1000×1500	300	1290	1890	300	155	455
	1200×1200	300	1490	2090	300	155	455
	1500×1000	300	1840	2440	300	180	480
	1500×1500	300	1840	2440	300	180	480
	1800×1500	300	2140	2740	300	180	480
	1800×1800	300	2140	2740	300	180	480
	2000×1500	300	2340	2940	300	180	480
	2000×2000	300	2340	2940	300	180	480
	2300×1500	400	2700	3500	400	210	610
	2300×2000	400	2700	3500	400	210	610
	2300×2300	400	2700	3500	400	210	610
	2500×1500	400	2900	3700	400	210	610
	2500×2000	400	2900	3700	400	210	610
	2500×2500	400	2940	3740	400	210	610
	2800×1500	400	3240	4040	400	230	630
	2800×2000	400	3240	4040	400	230	630
	2800×2800	400	3240	4040	400	230	630
	3000×1500	400	3440	4240	400	280	680
	3000×2000	400	3440	4240	400	280	680
	3000×2500	400	3440	4240	400	280	680
	3000×3000	400	3540	4340	400	280	680
	3500×2500	500	4040	5040	500	330	830
3.01m～6.0m	600×600	300	890	1490	300	155	455
	800×800	300	1090	1690	300	155	455
	1000×1000	300	1340	1940	300	180	480
	1000×1500	300	1340	1940	300	180	480
	1200×1200	300	1540	2140	300	180	480
	1500×1000	300	1840	2440	300	180	480
	1500×1500	300	1840	2440	300	180	480
	1800×1500	300	2200	2800	300	210	510
	1800×1800	300	2200	2800	300	210	510
	2000×1500	400	2440	3240	400	230	630
	2000×2000	400	2440	3240	400	230	630
	2300×1500	500	2800	3800	500	260	760
	2300×2000	500	2800	3800	500	260	760
	2300×2300	500	2800	3800	500	260	760
	2500×1500	500	3040	4040	500	290	790
	2500×2000	500	3040	4040	500	290	790
	2500×2500	500	3040	4040	500	290	790
	2800×1500	500	3400	4400	500	310	810
	2800×2000	500	3400	4400	500	310	810
	2800×2800	500	3400	4400	500	310	810
	3000×1500	500	3640	4640	500	380	880
	3000×2000	500	3640	4640	500	380	880
	3000×2500	500	3640	4640	500	380	880
	3000×3000	500	3640	4640	500	380	880
	3500×2500	600	4140	5340	600	410	1010

大型ボックスカルバート用段落ち防止枕　寸法表

土被り	呼び名	枕 規 格 (mm)					
	B×H	W1	W2	W	H1	H2	H
1.0m	4000×3000	400	4640	5440	400	330	730
	4000×4000	400	4640	5440	400	330	730
	4000×5000	500	4640	5640	500	330	830
	4500×3000	400	5140	5940	400	330	730
	4500×4000	500	5140	6140	500	330	830
	4500×5000	500	5140	6140	500	330	830
	5000×3000	500	5640	6640	500	330	830
	5000×4000	500	5640	6640	500	330	830
	5000×5000	500	5640	6640	500	330	830
	5500×3000	500	6140	7140	500	330	830
	5500×4000	500	6140	7140	500	330	830
	5500×5000	600	6140	7340	600	330	930
	6000×4000	600	6640	7840	600	330	930
	6000×5000	600	6640	7840	600	380	980
	6500×5000	600	7240	8440	600	430	1030
	6500×6000	600	7340	8540	600	430	1030
	7000×5000	600	7840	9040	600	430	1030
	7000×6000	600	7840	9040	600	430	1030
	7500×5000	600	8340	9540	600	480	1080
	7500×6000	600	8340	9540	600	480	1080
	8000×5000	700	8840	10240	700	480	1180
	8000×6000	700	8840	10240	700	530	1230
	8500×5000	700	9440	10840	700	530	1230
	8500×6000	800	9440	11040	800	530	1330
	9000×5000	700	10040	11440	700	580	1280
	9000×6000	800	10040	11640	800	580	1380
	9500×5000	800	10540	12140	800	580	1380
	9500×6000	800	10540	12140	800	580	1380
	10000×5000	900	11040	12840	900	630	1530
	10000×6000	900	11040	12840	900	630	1530
2.0m	4000×3000	500	4640	5640	500	330	830
	4000×4000	500	4640	5640	500	330	830
	4000×5000	500	4740	5740	500	330	830
	4500×3000	500	5140	6140	500	330	830
	4500×4000	500	5140	6140	500	380	880
	4500×5000	600	5240	6440	600	380	980
	5000×3000	500	5640	6640	500	380	880
	5000×4000	600	5640	6840	600	380	980
	5000×5000	600	5740	6940	600	380	980
	5500×3000	600	6240	7440	600	380	980
	5500×4000	600	6240	7440	600	430	1030
	5500×5000	600	6240	7440	600	430	1030
	6000×4000	600	6740	7940	600	430	1030
	6000×5000	700	6740	8140	700	480	1180
	6500×5000	700	7440	8840	700	530	1230
	6500×6000	700	7440	8840	700	530	1230
	7000×5000	700	7940	9340	700	530	1230
	7000×6000	800	7940	9540	800	580	1380
	7500×5000	800	8440	10040	800	530	1330
	7500×6000	800	8540	10140	800	580	1380
	8000×5000	800	9040	10640	800	580	1380
	8000×6000	900	9040	10840	900	630	1530
	8500×5000	900	9540	11340	900	630	1530
	8500×6000	900	9540	11340	900	680	1580
	9000×5000	900	10040	11840	900	680	1580
	9000×6000	900	10140	11940	900	680	1580
	9500×5000	900	10740	12540	900	730	1630
	9500×6000	1000	10740	12740	1000	730	1730
	10000×5000	1000	11340	13340	1000	830	1830
	10000×6000	1000	11340	13340	1000	830	1830
3.0m	4000×3000	500	4640	5640	500	380	880
	4000×4000	600	4640	5840	600	380	980
	4000×5000	600	4740	5940	600	380	980
	4500×3000	600	5240	6440	600	380	980
	4500×4000	600	5240	6440	600	430	1030
	4500×5000	600	5340	6540	600	430	1030
	5000×3000	600	5740	6940	600	430	1030
	5000×4000	600	5740	6940	600	430	1030
	5000×5000	700	5840	7240	700	480	1180
	5500×3000	700	6340	7740	700	480	1180
	5500×4000	700	6340	7740	700	480	1180
	5500×5000	700	6340	7740	700	480	1180
	6000×4000	800	6840	8440	800	530	1330
	6000×5000	800	6840	8440	800	580	1380
	6500×5000	800	7540	9140	800	580	1380
	6500×6000	800	7540	9140	800	580	1380
	7000×5000	800	8040	9640	800	630	1430
	7000×6000	800	8040	9640	800	630	1430
	7500×5000	900	8540	10340	900	630	1530
	7500×6000	900	8640	10440	900	680	1580
	8000×5000	900	9140	10940	900	680	1580
	8000×6000	900	9140	10940	900	680	1580
	8500×5000	1000	9740	11740	1000	780	1780
	8500×6000	1000	9740	11740	1000	780	1780
	9000×5000	1000	10340	12340	1000	830	1830
	9000×6000	1000	10340	12340	1000	830	1830

〔適用条件〕
1. ボックスカルバート施工後に残留沈下が予想されるような地盤箇所に設ける。
2. 道路下に埋設されるボックスカルバートに使用する。
3. プレキャストボックスカルバートに使用する。

〔仕　様〕
1. 設計、施工および製品の品質・出来形基準は下記による。
①大型プレキャストボックスカルバート設計・施工要領((社)北陸建設弘済会)
②道路土工 カルバート工指針((社)日本道路協会)

2. 均しコンクリート及び枕本体の配合規格は、下表のとおりとする。

規　格	呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
均しコンクリート	18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	65%以下	高炉セメント(B種)
枕　本　体	24	12cm	25mm又は40mm	55%以下	高炉セメント(B種)

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

3. 鉄筋はSD345を使用する。

4. 基礎材は再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
なお、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。

5. 基礎材の厚さは20cm程度、均しコンクリートの厚さは10cm程度とする。
ただし、基礎地盤が岩盤の場合は均しコンクリートのみとし、厚さは5～10cm程度とする。

6. 段落ち防止用枕の長さは「道路土工 カルバート工指針 第5章5－7」を参照する。

RCボックスカルバート用段落ち防止枕　寸法表

土被り	呼び名	枕 規 格 (mm)					
	B×H	W1	W2	W	H1	H2	H
0.5m～1.0m	600×600	300	900	1500	300	160	460
	800×800	300	1100	1700	300	160	460
	1000×1000	300	1300	1900	300	160	460
	1000×1500	300	1300	1900	300	160	460
	1200×1200	300	1500	2100	300	160	460
	1500×1000	300	1820	2420	300	190	490
	1500×1500	300	1820	2420	300	190	490
	1800×1500	300	2140	2740	300	200	500
	1800×1800	300	2140	2740	300	200	500
	2000×1500	300	2360	2960	300	210	510
	2000×2000	300	2360	2960	300	210	510
	2300×2000	400	2700	3500	400	230	630
	2300×2300	400	2700	3500	400	230	630
	2500×2000	400	2940	3740	400	250	650
	2500×2500	400	2940	3740	400	250	650
	2800×2000	400	3280	4080	400	270	670
	2800×2500	400	3280	4080	400	270	670
	3000×2000	400	3520	4320	400	290	690
	3000×2500	400	3520	4320	400	290	690
	3000×3000	400	3520	4320	400	290	690
	3500×2500	500	4040	5040	500	340	840

備　考

意見NO.29
意見NO.46

積算上の注意事項

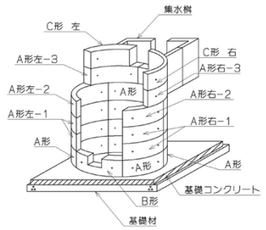
工　　種	共通編　円形落差工

改 正 理 由	標準設計として書式を統一する	改　正 現　行	

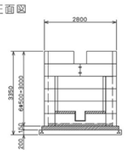
現　　行

⑬ 改　共ーⅧー5

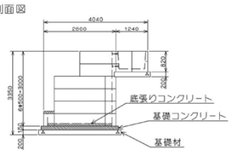
施 工 図（H=3.0mの場合）



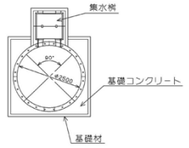
正面図



側面図



平面図



呼び名	数量（ヶ）		
	H=2.0m	H=2.5m	H=3.0m
A形	4	5	6
A形右－1	－	1	2
A形左－1	－	1	2
A形右－2	1	1	1
A形左－2	1	1	1
A形右－3	1	1	1
A形左－3	1	1	1
B形	1	1	1
C形右	1	1	1
C形左	1	1	1
合計	11ヶ	14ヶ	17ヶ

名称	円 形 落 差 工	工種記号	砂ー落差工

〔適用条件〕

1. 地すべり地の排水路工等における落差工に使用する。
2. H=2.0m、2.5m、3.0mを標準とする。H=3.0mを超える場合は協議事項する。

〔仕　様〕

1. 構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧（共ー38）」による。
2. 基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
3. 基礎コンクリートの厚さは15cm程度、基礎材の厚さは20cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕（5～10cm）をもたせる。
4. 底盤には、厚さ10cm程度の底張りコンクリートを設ける。
5. 底張りコンクリート及び基礎コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

6. 横方向はボルト連結とし、モルタルを充填する。縦方向の連結は垂直鉄筋(SD345)を挿入し、グラウトを行う。
7. 暗渠排水孔を設けることができる。
8. 背面に流量緩和のための集水桝を設置することを標準とする。

〔設計表示方法〕

砂 ー 落差工 ー H（　）ー A（　）
　　高さ　　暗渠の有無

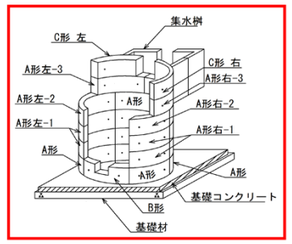
表示例

砂 ー 落差工 ー H 2.5 ー A 有

改　　正

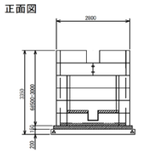
⑲ 改　共ーⅧー5

施 工 図（H=3.0mの場合）

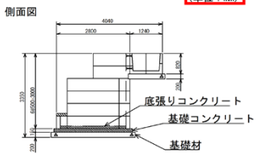


（単位：mm）

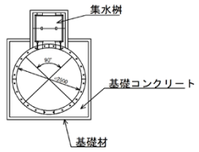
正面図



側面図



平面図



呼び名	数量（ヶ）		
	H=2.0m	H=2.5m	H=3.0m
A形	4	5	6
A形右－1	－	1	2
A形左－1	－	1	2
A形右－2	1	1	1
A形左－2	1	1	1
A形右－3	1	1	1
A形左－3	1	1	1
B形	1	1	1
C形右	1	1	1
C形左	1	1	1
合計	11ヶ	14ヶ	17ヶ

名称	円 形 落 差 工	工種記号	砂ー落差工

〔適用条件〕

1. 地すべり地の排水路工等における落差工に使用する。
2. H=2.0m、2.5m、3.0mを標準とする。H=3.0mを超える場合は協議事項する。

〔仕　様〕

1. 構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧（共ー38）」による。
2. 基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
3. 基礎コンクリートの厚さは15cm程度、基礎材の厚さは20cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕（5～10cm）をもたせる。
4. 底盤には、厚さ10cm程度の底張りコンクリートを設ける。
5. 底張りコンクリート及び基礎コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

6. 横方向はボルト連結とし、モルタルを充填する。縦方向の連結は垂直鉄筋(SD345)を挿入し、グラウトを行う。
7. 暗渠排水孔を設けることができる。
8. 背面に流量緩和のための集水桝を設置することを標準とする。

〔設計表示方法〕

砂 ー 落差工 ー H（　）ー A（　）
　　高さ　　暗渠の有無

表示例

砂 ー 落差工 ー H 2.5 ー A 有

備　　考

意見NO.31

積算上の注意事項	

（控え頁）

工　　種	河川編　法覆工　コンクリート格子枠張

改 正 理 由	土木用コンクリート製品設計便覧の記載内容に併せ修正する	改　正 現　行	

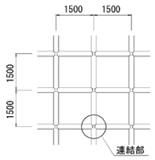
現　　行

⑬ 改　河ーⅡ－4

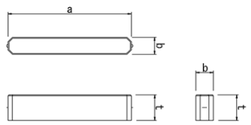
名称	法覆工　コンクリート格子枠張	工種記号	枠

断 面 図　（単位：mm）

正 面 図

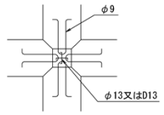


格子枠



参　考

連結部



単位（mm）

呼び名	寸法 a	寸法 b	寸法 t	参考質量（kg/本）
枠	1400	200	300	190

〔適用条件〕

1.　河川の護岸法覆工に使用する。

〔仕　様〕

1.　構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧（河ー10）」による。

2.　裏込工は、再生砕石（RC-40）を標準とする。

3.　法枠内の中詰コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
21	5cm	25mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

4.　格子枠の連結部については、モルタル等で間詰めをする。

〔設計表示方法〕

枠 ー（　）　　A＝（　）㎡

中詰材：玉石／緑化土のう／客土吹付　　設計面積

表示例

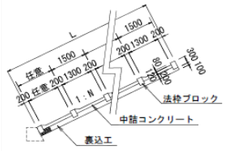
枠 ー 玉石　　A＝ 80 ㎡

改　　正

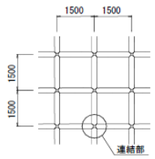
⑲ 改　河ーⅡ－4

名称	法覆工　コンクリート格子枠張	工種記号	枠

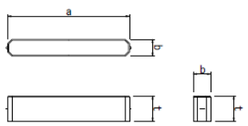
断 面 図　（単位：mm）



正 面 図

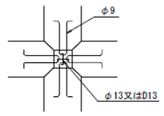


格子枠



参　考

連結部



単位（mm）

呼び名	寸法 a	寸法 b	寸法 t	参考質量（kg/本）
枠	1400	200	300	197

〔適用条件〕

1.　河川の護岸法覆工に使用する。

〔仕　様〕

1.　構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧（河ー10）」による。

2.　裏込工は、再生砕石（RC-40）を標準とする。

3.　法枠内の中詰コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
21	5cm	25mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

4.　格子枠の連結部については、モルタル等で間詰めをする。

〔設計表示方法〕

枠 ー（　）　　A＝（　）㎡

中詰材：玉石／緑化土のう／客土吹付　　設計面積

表示例

枠 ー 玉石　　A＝ 80 ㎡

備　　考

意見NO.32

積算上の注意事項	

（控え頁）

工　　種	河川編　法留工

改 正 理 由	設計ミスの防止に向けて寸法表記を変更する	改　正 現　行	

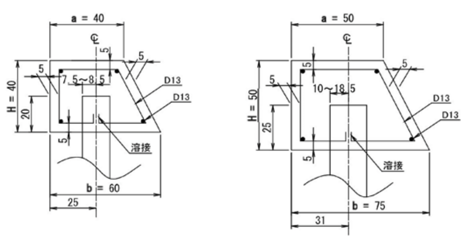
現　　行

⒀ 改　河－Ｉ－4

名称	法留工 鋼矢板基礎（Ⅱ）(現場打ち)	工種記号	基－Ⅱ

法留工標準図（自立式その1）

（単位：cm）



鉄筋加工図（配力筋）

ℓ = 1.50m/本　　ℓ = 2.00m/本

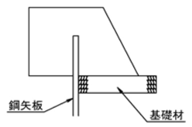
※配力筋は40cm間隔とし、鋼矢板に溶接する。

タイプ	適用範囲	H (cm)	a (cm)	b (cm)	コンクリート量 (m^3/m)	型枠面積 (m^2/m)	鉄筋量 (kg/m)	溶接長 (cm/m)	目地材 (m^2/m)	基礎材料 (m^2/m)	基面整正 (m^2/m)
11 型	Ⅰ型	40	40	60	0.200	0.867	D13 7.821	15	0.020	0.045	0.450
12 型	Ⅱ～Ⅳ型	50	50	75	0.313	1.090	D13 9.114	15	0.031	0.054	0.540

（注）1. 型枠面積は基－Ｉと同じ考え方とする。
2. 溶接長は配力筋 1本に 6cm（脚長 6mm）の溶接長とする。
3. 底面型枠は必要に応じ埋殺し型枠等を見込む。
4. 10m間隔に目地を入れるものとする。

〔適用条件〕
1. 自立式護岸の法留工に使用するものとする。
2. 鋼矢板の規格、型式は別途検討する。
3. 護岸の法勾配は2割とする。
4. プレキャスト製品が使用できない場合に使用する。

〔仕　様〕
1. 基礎構造は次のとおりとする。
法留工には厚さ10cm程度の基礎を施すものとし、その施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。ただし、地盤材料が基礎材と同等なものの場合は、基礎を施さないものとする。



2. 基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
3. 底面型枠は、必要に応じ施工するものとする。
4. コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
21	8cm	40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

〔設計表示方法〕

基－Ⅱ－（現）－（　）－（　）　　L＝（　）m・（　）枚

タイプ　矢板の種類　設計延長　枚数

表示例

基－Ⅱ－（現）－12型－Ⅲ型　　L＝ 100 m・ 25 枚

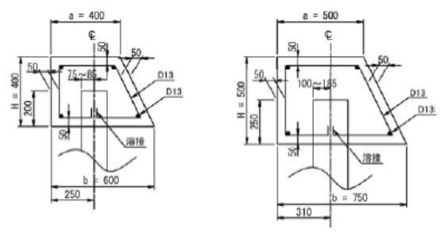
改　　正

⒆ 改　河－Ｉ－4

名称	法留工 鋼矢板基礎（Ⅱ）(現場打ち)	工種記号	基－Ⅱ

法留工標準図（自立式その1）

（単位：mm）



鉄筋加工図（配力筋）

ℓ = 1.50m/本　　ℓ = 2.00m/本

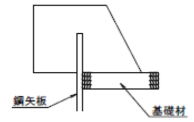
※配力筋は40cm間隔とし、鋼矢板に溶接する。

タイプ	適用範囲	H (mm)	a (mm)	b (mm)	コンクリート量 (m^3/m)	型枠面積 (m^2/m)	鉄筋量 (kg/m)	溶接長 (mm/m)	目地材 (m^2/m)	基礎材料 (m^2/m)	基面整正 (m^2/m)
11 型	Ⅰ型	400	400	600	0.200	0.867	D13 7.821	150	0.020	0.045	0.450
12 型	Ⅱ~Ⅳ型	500	500	750	0.313	1.090	D13 9.114	150	0.031	0.054	0.540

（注）1. 型枠面積は基－Ｉと同じ考え方とする。
2. 溶接長は配力筋 1本に 6cm（脚長 6mm）の溶接長とする。
3. 底面型枠は必要に応じ埋殺し型枠等を見込む。
4. 10m間隔に目地を入れるものとする。

〔適用条件〕
1. 自立式護岸の法留工に使用するものとする。
2. 鋼矢板の規格、型式は別途検討する。
3. 護岸の法勾配は2割とする。
4. プレキャスト製品が使用できない場合に使用する。

〔仕　様〕
1. 基礎構造は次のとおりとする。
法留工には厚さ10cm程度の基礎を施すものとし、その施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。ただし、地盤材料が基礎材と同等なものの場合は、基礎を施さないものとする。



2. 基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
3. 底面型枠は、必要に応じ施工するものとする。
4. コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
21	8cm	40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

〔設計表示方法〕

基－Ⅱ－（現）－（　）－（　）　　L＝（　）m・（　）枚

タイプ　矢板の種類　設計延長　枚数

表示例

基－Ⅱ－（現）－12型－Ⅲ型　　L＝ 100 m・ 25 枚

備　　考

意見NO.33

(以下、対象工種)
・法留工　コンクリート基礎(現場打ち)
・法留工　鋼矢板基礎(Ⅱ)(現場打ち)
・法留工　鋼矢板基礎(Ⅲ)(現場打ち)
・法留工　鋼矢板基礎(Ⅳ)(現場打ち)

積算上の注意事項		(控え頁) 1／1

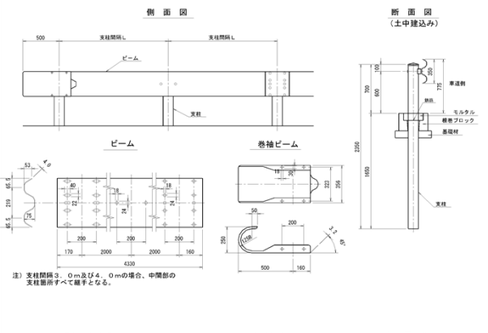
工　　種	道路編　路側用ガードレール

改正理由	基準図書を更新すると共に仕様を修正する	改正 / 現行	

現　行

⑬改　道－Ⅱ－1

名称	路側用ガードレール(A種)	工種記号	Gr－A



〔適用条件〕

1. 防護柵の設置場所、種別及び型式選定については、「防護柵の設置基準・同解説((社)日本道路協会)」及び「車両用防護柵標準仕様・同解説((社)日本道路協会)」による。

〔仕　様〕

1. 「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン(景観に配慮した防護柵推進検討委員会)」により適切な色彩を選定する。

鋼製防護柵において基本とする色彩の標準マンセル値

基本色名称	標準マンセル値	基本色名称	標準マンセル値
ダークブラウン(こげ茶)	10YR 2.0/1.0 程度	ダークグレー(濃灰色)	10YR 3.0/0.2 程度
グレーベージュ(薄灰茶色)	10YR 6.0/1.0 程度	オフホワイト(乳白色)	10YR 8.5/0.5 程度

なお、アルミ製、ステンレス製、メッキ製(下地処理を除く)防護柵は、塗装を行わないことを基本とする。

2. 支柱から路肩の離れについては、特に注意すること。
3. 根巻ブロックはプレキャストコンクリートを標準とし、その構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧(道－4)」による。なお、支柱との間隙にはコンクリートモルタルを充填するものとする。
4. コンクリート建込みの場合、構造物の当該部分が無筋コンクリートまたはそれに近い場合は補強鉄筋(SD295A)を配置する。また支柱と構造物の間隙には上下にアスファルトでシールし、中間部には砂を充填する。
5. 基礎材は再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分な締固めを行う。
6. 基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5cm程度)をもたせる。
7. ビームの中心高さは、路面からの高さをいう。

〔設計表示方法〕

Gr－A(　)－(　)(　)　　L＝(　)m

種別／積雪ランク／支柱間隔／基礎構造(土中orコン建込みの別)／設計延長

表示例

Gr－A3－2B　　L＝200m

構造諸元表

	ランク	型式	ビーム 厚さ×幅×長さ	ビーム 取付ボルト	巻袖ビーム 厚さ×幅×巻込み長	巻袖ビーム 取付ボルト	支柱 外径×厚さ×長さ	ブラケット 厚さ×幅×長さ	ブラケット 取付ボルト	根巻ブロック 呼び名	根巻ブロック 幅口×厚さ	根巻ブロック 鉄筋径×長さ
土中建込み	1	G-A1-4E	4.0×350×4330	M16×35 4T 丸頭	3.2×356×250	M16×35 4T 丸頭	139.8×4.5×2350	4.5×70×300	M20×170 4T	－	－	－
	3	G-A3-3E	4.0×350×3330					6.0×120×300		1	400×250	D16×300
	4	G-A4-2E	4.0×350×4330									
	5	G-A5-2E										
建込み	コンクリート	1	G-A1-2B	4.0×350×4330	M16×35 4T 丸頭	3.2×356×250	139.8×4.5×1100	4.5×70×300	M20×170 4T	－	－	－
		3	G-A3-2B					6.0×120×300				
		4	G-A4-2B									
		5	G-A5-2B									

	材質	防錆処理 塗装仕上げによる場合	亜鉛めっき地肌のままの場合
ビーム(巻袖ビームを含む)	JIS G 3101(一般構造用圧延鋼材)2種(SS400)	・JIS G 3302「亜鉛鉄板」の溶融亜鉛めっきにより最小付着量275g/m²(両面)とし、燐酸塩処理等の下地処理を行う。 ・塗装は熱硬化性アクリル樹脂塗料により最小塗膜厚20μ	・成形加工後JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」2種55(HDZ55)最小付着量550g/m²(片面)
支柱	JIS G 3444(一般構造用炭素鋼鋼管)(STK400)	・ビームに準ずる。ただし、土中建込部分は、亜鉛めっき後、黒ワニスによる内外面塗装。	・ビームに準ずる。
ブラケット	ビームに準ずる。	・ビームに準ずる。	・ビームに準ずる。
ボルト・ナット	JIS B 1180「六角ボルト」 JIS B 1181「六角ナット」の規定による。	・ビームに準ずる。ただし、ステンレス製の場合は無処理とする。	・成形加工後JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」2種35(HDZ35)最小付着量350g/m2(片面) ・ステンレス製は無処理とする。

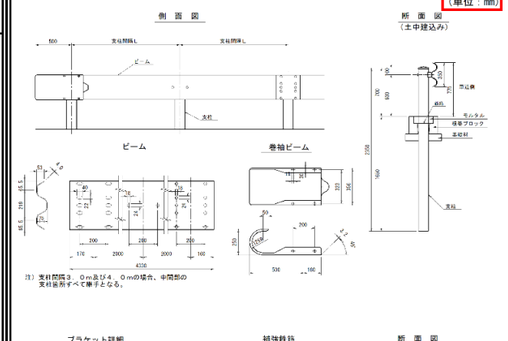
注1)　材質(ビーム、支柱、ブラケット)及び防錆処理は、上表の材料を用いるか、又は、これと同等以上とする。
注2)　防錆処理方法は原則として塗装仕上による事とするが、塩害など特に防錆力を必要とする場合は、亜鉛めっき仕上げとする。
ただし、ビームの板厚が3.2mm未満となる場合は塗装仕上げとする。

改　正

(単位：mm)

19改　道－Ⅱ－1

名称	路側用ガードレール(A種)	工種記号	Gr－A



〔適用条件〕

1. 防護柵の設置場所、種別及び型式選定については、「防護柵の設置基準・同解説((社)日本道路協会)」及び「車両用防護柵標準仕様・同解説((社)日本道路協会)」による。

〔仕　様〕

1. 「景観に配慮した道路付属物等整備ガイドライン(道路のデザインに関する検討委員会)」により適切な色彩を選定する。

鋼製防護柵において基本とする色彩の標準マンセル値

基本色名称	標準マンセル値	基本色名称	標準マンセル値
ダークブラウン(こげ茶)	10YR 2.0/1.0 程度	ダークグレー(濃灰色)	10YR 3.0/0.2 程度
グレーベージュ(薄灰茶色)	10YR 6.0/1.0 程度	オフグレー(薄灰色)	5Y 7.0/0.5 程度

なお、アルミ製防護柵やステンレス製防護柵については、素材そのものの色彩を害かすことを禁止とする。

2. 支柱から路肩の離れについては、特に注意すること。
3. 根巻ブロックはプレキャストコンクリートを標準とし、その構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧(道－4)」による。なお、支柱との間隙にはコンクリートモルタルを充填するものとする。
4. コンクリート建込みの場合、構造物の当該部分が無筋コンクリートまたはそれに近い場合は補強鉄筋(SD295A)を配置する。また支柱と構造物の間隙には上下にアスファルトでシール し、中間部には砂を充填する。
5. 基礎材は再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分な締固めを行う。
6. 基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5cm程度)をもたせる。
7. ビームの中心高さは、路面からの高さをいう。

〔設計表示方法〕

Gr－A(　)－(　)(　)　　L＝(　)m

種別／積雪ランク／支柱間隔／基礎構造(土中orコン建込みの別)／設計延長

表示例

Gr－A3－2B　　L＝200m

構造諸元表

	ランク	型式	ビーム 厚さ×幅×長さ	ビーム 取付ボルト	巻袖ビーム 厚さ×幅×巻込み長	巻袖ビーム 取付ボルト	支柱 外径×厚さ×長さ	ブラケット 厚さ×幅×長さ	ブラケット 取付ボルト	根巻ブロック 呼び名	根巻ブロック 幅口×厚さ	根巻ブロック 鉄筋径×長さ
土中建込み	1	G-A1-4E	4.0×350×4330	M16×35 4T 丸頭	3.2×356×250	M16×35 4T 丸頭	139.8×4.5×2350	4.5×70×300	M20×170 4T	－	－	－
	3	G-A3-3E	4.0×350×3330					6.0×120×300		1	400×250	D16×300
	4	G-A4-2E	4.0×350×4330									
	5	G-A5-2E										
建込み	コンクリート	1	G-A1-2B	4.0×350×4330	M16×35 4T 丸頭	3.2×356×250	139.8×4.5×1100	4.5×70×300	M20×170 4T	－	－	－
		3	G-A3-2B					6.0×120×300				
		4	G-A4-2B									
		5	G-A5-2B									

	材質	防錆処理 塗装仕上げによる場合	亜鉛めっき地肌のままの場合
ビーム(巻袖ビームを含む)	JIS G 3101(一般構造用圧延鋼材)2種(SS400)	・JIS G 3302「亜鉛鉄板」の溶融亜鉛めっきにより最小付着量275g/m²(両面)とし、燐酸塩処理等の下地処理を行う。 ・塗装は熱硬化性アクリル樹脂塗料により最小塗膜厚20μ	・成形加工後JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」2種55(HDZ55)最小付着量550g/m²(片面)
支柱	JIS G 3444(一般構造用炭素鋼鋼管)(STK400)	・ビームに準ずる。ただし、土中建込部分は、亜鉛めっき後、黒ワニスによる内外面塗装。	・ビームに準ずる。
ブラケット	ビームに準ずる。	・ビームに準ずる。	・ビームに準ずる。
ボルト・ナット	JIS B 1180「六角ボルト」 JIS B 1181「六角ナット」の規定による。	・ビームに準ずる。ただし、ステンレス製の場合は無処理とする。	・成形加工後JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」2種35(HDZ35)最小付着量350g/m2(片面) ・ステンレス製は無処理とする。

注1)　材質(ビーム、支柱、ブラケット)及び防錆処理は、上表の材料を用いるか、又は、これと同等以上とする。
注2)　防錆処理方法は原則として塗装仕上による事とするが、塩害など特に防錆力を必要とする場合は、亜鉛めっき仕上げとする。
ただし、ビームの板厚が3.2mm未満となる場合は塗装仕上げとする。

備　考

意見NO.34
(以下、対象工種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)

意見NO.38
(以下、対象工種)
・素掘側溝
・自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・集水桝・街渠桝
・ｱｰﾁﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ
・吹付法枠
・境界標
・電線共同溝(CCBOX)
・円形落差工
・管理橋
・L型側溝
・縁石
・ｱｽﾌｧﾙﾄｶｰﾌﾞ及び集・排水
・地下排水
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
・歩道用ガードパイプ
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
・歩道用ｺﾝｸﾘｰﾄ防護柵(RC)
・ｺﾝｸﾘｰﾄ壁型防護柵
・落石防止柵
・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1～3
・片持型標識(F2)その1～6
・伸縮継手(V型)
・橋梁用排水装置(その1～2)
・車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
・車道用高欄(ｺﾝｸﾘｰﾄ製)
・飛雪防止柵
・落下物防止網
・橋梁下部工検査路
・橋梁上部工検査路
・鋼製雪崩予防柵30°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵35°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵40°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵45°(その1～2)
・PC雪崩予防柵(その1)
・鋼製雪崩予防柵
・PC雪崩防護柵
・PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
・PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
・鋼製せり出し防止柵
・PCせり出し防護柵
・地吹雪防止柵
・路側流雪溝
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
・消雪用ポンプ室(プレキャスト)
・消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
・融雪舗装版
・情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
・光ケーブル用埋設鋲
・中央帯工

積算上の注意事項

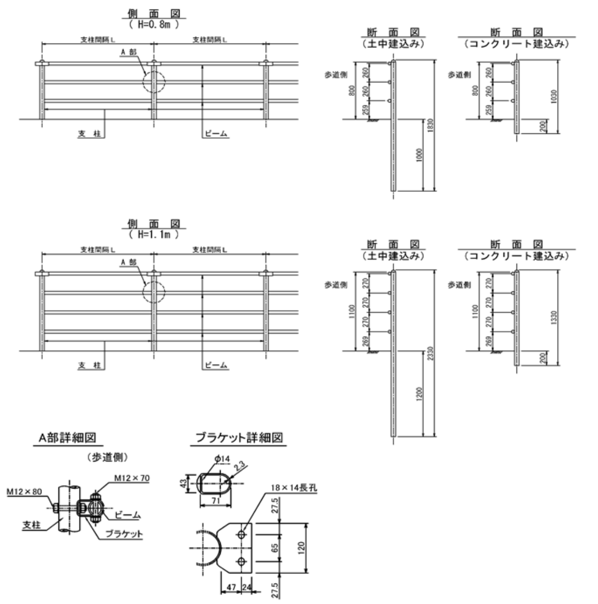
(控え頁)

改正理由	基準図書を更新すると共に仕様を修正する	改　正 / 現　行	

現　　　　行

⑬ 改　道－Ⅱ－9

名称：**歩道用ガードパイプ**　工種記号：P1



〔適用条件〕

1. 防護柵の設置場所、種別及び型式選定については、「防護柵の設置基準・同解説（(社)日本道路協会）」による。
2. 柵高800は横断防止用、柵高1100は転落防止用として使用する。
3. 積雪ランク1地域で使用する。

〔仕　様〕

1. 「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン（景観に配慮した防護柵推進検討委員会）」により適切な色彩を選定する。

鋼製防護柵において基本とする色彩の標準マンセル値

基本色名称	標準マンセル値	基本色名称	標準マンセル値
ダークブラウン(こげ茶)	10YR 2.0/1.0 程度	ダークグレー(濃灰色)	10YR 3.0/0.2 程度
グレーベージュ(薄灰茶色)	10YR 6.0/1.0 程度	オフホワイト(乳白色)	10YR 8.5/0.5 程度

なお、アルミ製、ステンレス製、メッキ製（下地処理を除く）防護柵は、塗装を行わないことを基本とする。

2. 支柱は沈下、傾斜等生じないよう十分締め固めを行う。
3. ブラケットは当図を標準とする。ただし、市場性・経済性等を勘案し適宜選定をする。
4. 柵高は、路面からの高さとする。

〔設計表示方法〕

P　1　－（　）－（　）（　）　　L＝（　）m

積雪ランク／柵高／支柱間隔／基礎構造（土中orコン建の別）／設計延長

表示例

P1－1.1－3.0B　　L＝200m

構造諸元表

	積雪ランク	柵高	形式 種別・地域・柵高・支間	ビーム 外径×厚さ×長さ	ビーム 取付ボルト	支柱 外径×厚さ×長さ	ブラケット 厚さ×幅×長さ	ブラケット 取付ボルト	根巻ブロック 呼び名	根巻ブロック 幅口×厚さ	根巻ブロック 鉄筋径×長さ
土中建込み	1	0.8	P_1-0.8-3.0E-f	42.7×2.3×3000	M12×70 6T 丸頭	60.5×3.2×1830	2.3×49.4×120	M12×80 4T	—	—	—
	1	1.1	P_1-1.1-3.0E-f			60.5×3.2×2330					
コンクリート建込み	1	0.8	P_1-0.8-3.0B-f	42.7×2.3×3000	M12×70 6T 丸頭	60.5×3.2×1030	2.3×49.4×120	M12×80 4T	—	—	—
	1	1.1	P_1-1.1-3.0B-f			60.5×3.2×1330					

	材質	防錆処理 塗装仕上げによる場合	防錆処理 亜鉛めっき地肌のままの場合
ビーム（パネルを含む）	JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）2種（SS400） JIS G 3131（熱間圧延軟鋼板及び鋼帯）（SPHC） JIS G 3444（一般構造用炭素鋼鋼管）（STK400） JIS G 3466（一般構造用角形鋼管）（STKR400）	JIS G 3302「亜鉛鉄板」の溶融亜鉛めっき法で最小付着量275g/㎡（両面）とし、燐酸塩処理等の下地処理を行う。 塗装は熱硬化性アクリル樹脂塗料により最小塗膜厚20μ	成形加工後JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」2種35（HDZ35）最小付着量350g/㎡（片面）
支柱	JIS G 3444（一般構造用炭素鋼鋼管）（STK400）	ビームに準ずる。ただし、土中建込部分は亜鉛めっき後、黒ワニスを用いた内外面塗装。	成形加工後JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」2種55（HDZ55）最小付着量550g/㎡（片面）
ブラケット	ビームに準ずる。	ビームに準ずる。	ビームに準ずる。
ボルト・ナット	JIS B 1180「六角ボルト」 JIS B 1181「六角ナット」の規定による。	ビームに準ずる。ただし、ステンレス製の場合は無処理とする。	JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」2種35（HDZ35）最小付着量350g/㎡（片面）ただし、ステンレス製の場合は無処理とする。

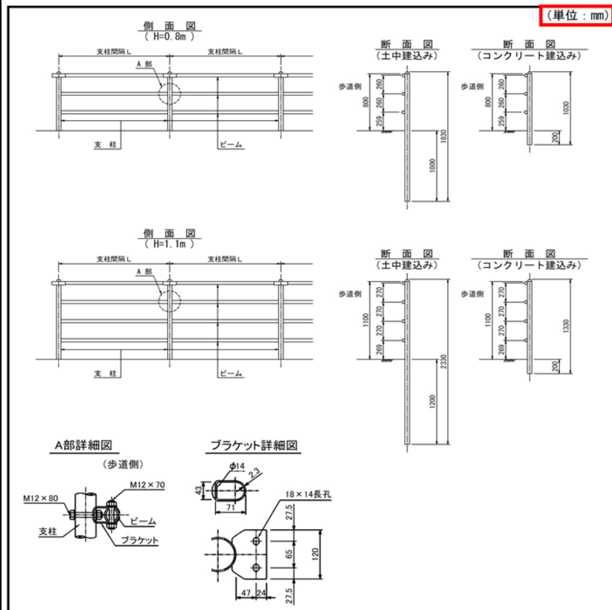
注1）材質（ビーム、支柱、ブラケット）及び防錆処理（塗装仕上げ）は上表の材料を用いるか、またはこれと同等以上とする。
注2）防錆処理方法は原則として塗装仕上げによる事とするが、塩害など特に防錆力を必要とする場合は、亜鉛めっき仕上げとする。

改　　　　正

⑲ 改　道－Ⅱ－9

（単位：mm）

名称：**歩道用ガードパイプ**　工種記号：P1



〔適用条件〕

1. 防護柵の設置場所、種別及び型式選定については、「防護柵の設置基準・同解説（(社)日本道路協会）」による。
2. 柵高800は横断防止用、柵高1100は転落防止用として使用する。
3. 積雪ランク1地域で使用する。

〔仕　様〕

1. 「景観に配慮した道路付属物等整備ガイドライン（道路のデザインに関する検討委員会）」により適切な色彩を選定する。

鋼製防護柵において基本とする色彩の標準マンセル値

基本色名称	標準マンセル値	基本色名称	標準マンセル値
ダークブラウン(こげ茶)	10YR 2.0/1.0 程度	ダークグレー(濃灰色)	10YR 3.0/0.2 程度
グレーベージュ(薄灰茶色)	10YR 6.0/1.0 程度	オフグレー(薄灰色)	5Y 7.0/0.5 程度

なお、アルミ製防護柵やステンレス製防護柵については、素材そのものの色彩を活かすことを基本とする。

2. 支柱は沈下、傾斜等生じないよう十分締め固めを行う。
3. ブラケットは当図を標準とする。ただし、市場性・経済性等を勘案し適宜選定をする。
4. 柵高は、路面からの高さとする。

〔設計表示方法〕

P　1　－（　）－（　）（　）　　L＝（　）m

積雪ランク／柵高／支柱間隔／基礎構造（土中orコン建の別）／設計延長

表示例

P1－1.1－3.0B　　L＝200m

構造諸元表

	積雪ランク	柵高	形式 種別・地域・柵高・支間	ビーム 外径×厚さ×長さ	ビーム 取付ボルト	支柱 外径×厚さ×長さ	ブラケット 厚さ×幅×長さ	ブラケット 取付ボルト	根巻ブロック 呼び名	根巻ブロック 幅口×厚さ	根巻ブロック 鉄筋径×長さ
土中建込み	1	0.8	P_1-0.8-3.0E-f	42.7×2.3×3000	M12×70 6T 丸頭	60.5×3.2×1830	2.3×49.4×120	M12×80 4T	—	—	—
	1	1.1	P_1-1.1-3.0E-f			60.5×3.2×2330					
コンクリート建込み	1	0.8	P_1-0.8-3.0B-f	42.7×2.3×3000	M12×70 6T 丸頭	60.5×3.2×1030	2.3×49.4×120	M12×80 4T	—	—	—
	1	1.1	P_1-1.1-3.0B-f			60.5×3.2×1330					

	材質	防錆処理 塗装仕上げによる場合	防錆処理 亜鉛めっき地肌のままの場合
ビーム（パネルを含む）	JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）2種（SS400） JIS G 3131（熱間圧延軟鋼板及び鋼帯）（SPHC） JIS G 3444（一般構造用炭素鋼鋼管）（STK400） JIS G 3466（一般構造用角形鋼管）（STKR400）	JIS G 3302「亜鉛鉄板」の溶融亜鉛めっき法で最小付着量275g/㎡（両面）とし、燐酸塩処理等の下地処理を行う。 塗装は熱硬化性アクリル樹脂塗料により最小塗膜厚20μ	成形加工後JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」2種35（HDZ35）最小付着量350g/㎡（片面）
支柱	JIS G 3444（一般構造用炭素鋼鋼管）（STK400）	ビームに準ずる。ただし、土中建込部分は亜鉛めっき後、黒ワニスを用いた内外面塗装。	成形加工後JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」2種55（HDZ55）最小付着量550g/㎡（片面）
ブラケット	ビームに準ずる。	ビームに準ずる。	ビームに準ずる。
ボルト・ナット	JIS B 1180「六角ボルト」 JIS B 1181「六角ナット」の規定による。	ビームに準ずる。ただし、ステンレス製の場合は無処理とする。	JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」2種35（HDZ35）最小付着量350g/㎡（片面）ただし、ステンレス製の場合は無処理とする。

注1）材質（ビーム、支柱、ブラケット）及び防錆処理（塗装仕上げ）は上表の材料を用いるか、またはこれと同等以上とする。
注2）防錆処理方法は原則として塗装仕上げによる事とするが、塩害など特に防錆力を必要とする場合は、亜鉛めっき仕上げとする。

備　　考

意見NO.35
(以下、対象工種)

- 歩道用ガードパイプ
- 歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
- 歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)

意見NO.38
(以下、対象工種)

- 素掘側溝
- 自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
- 集水桝・街渠桝
- アーチﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ
- 吹付法枠
- 境界標
- 電線共同溝(CCBOX)
- 円形落差工
- 管理橋
- L型側溝
- 縁石
- ｱｽﾌｧﾙﾄｶｰﾌﾞ及び集・排水
- 地下排水
- 路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
- 路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
- 路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
- 路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
- 路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
- 路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
- 路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
- 路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
- 歩道用ガードパイプ
- 歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
- 歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
- 歩道用ｺﾝｸﾘｰﾄ防護柵(RC)
- ｺﾝｸﾘｰﾄ壁型防護柵
- 落石防止柵
- ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
- ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装
- 単柱型標識
- 二柱型標識
- 片持型標識(F1)その1～3
- 片持型標識(F2)その1～6
- 伸縮継手(V型)
- 橋梁用排水装置(その1～2)
- 車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
- 車道用高欄(ｺﾝｸﾘｰﾄ製)
- 飛雪防止柵
- 落下物防止網
- 橋梁下部工検査路
- 橋梁上部工検査路
- 鋼製雪崩予防柵30°(その1～2)
- 鋼製雪崩予防柵35°(その1～2)
- 鋼製雪崩予防柵40°(その1～2)
- 鋼製雪崩予防柵45°(その1～2)
- PC雪崩予防柵(その1)
- 鋼製雪崩予防柵
- PC雪崩防護柵
- PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
- PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
- 鋼製せり出し防止柵
- PCせり出し防護柵
- 地吹雪防止柵
- 路側流雪溝
- 消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
- 消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
- 消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
- 消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
- 消雪用ポンプ室(プレキャスト)
- 消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
- 融雪舗装版
- 情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
- 光ケーブル用埋設鋲
- 中央帯工

積算上の注意事項		(控え頁) 1／1

工　　種	道路編　標識

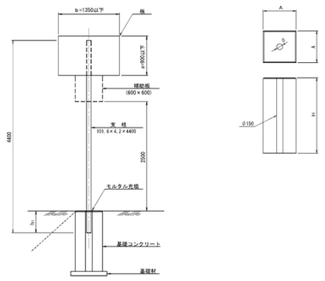
改正理由	基準図書を追加すると共に仕様を修正する	改正 現行	

現　行

⑬ 改　道－Ⅳ－1

名称	単　柱　型　標　識	工種記号	SP－S

単柱型標識　　基礎コンクリート



設置箇所	種別	基礎寸法(mm)		支柱	
		A	H	単位質量	質量
歩道部	S-1	500	1400	10.1kg/m	44.4kg/m
法肩部	S-2	600	1400		

〔適用条件〕

1. 設置箇所及び種別の選定は、「交通安全施設設計要領((社)北陸建設弘済会)」による。

〔仕　様〕

1. 標識板の材質は、アルミニウム合金板(t＝2.0mm)とし、反射材料は原則としてカプセルレンズ型とする。
2. 支柱の材質は、STK400とし、溶融亜鉛めっきを施すものとし、JIS H8641(HDZ55)による。
3. 支柱の埋込長(h₁)は、最小50cmとし、標識板の大きさにより適宜調整する。
4. 支柱との間には、モルタルを充填する。
5. 現場打ちコンクリートとする場合の配合規格は下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上表配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

6. 基礎材は再生砕石(RC－40)を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
7. 基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。
8. 埋め戻しは、十分締め固めを行う。

〔設計表示方法〕

SP － S －(　)－ a × b　　N＝(　)

板寸法　　設計基数

種　別

表示例

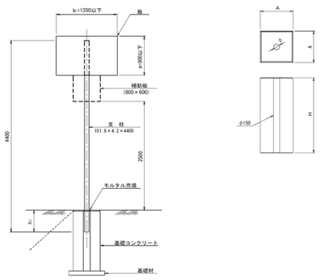
ＳＰ－Ｓ－ 1 － 800 × 1300　　Ｎ ＝ 10

改　正

⑲ 改　道－Ⅳ－1

名称	単　柱　型　標　識	工種記号	SP－S

単柱型標識　　基礎コンクリート　(単位：mm)



設置箇所	種別	基礎寸法(mm)		支柱	
		A	H	単位質量	質量
歩道部	S-1	500	1400	10.1kg/m	44.4kg/m
法肩部	S-2	600	1400		

〔適用条件〕

1. 設置箇所及び種別の選定は、「交通安全施設設計要領((社)北陸建設弘済会)」による。

〔仕　様〕

1. 標識板の材質は、アルミニウム合金板(t＝2.0mm)とし、反射材料は原則としてカプセルレンズ型とする。
2. 支柱の材質は、STK400とし、溶融亜鉛めっきを施すものとし、JIS H8641(HDZ55)による。
3. 支柱の埋込長(h₁)は、最小50cmとし、標識板の大きさにより適宜調整する。
4. 支柱との間には、モルタルを充填する。
5. 現場打ちコンクリートとする場合の配合規格は下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上表配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

6. 基礎材は再生砕石(RC－40)を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
7. 基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。
8. 埋め戻しは、十分締め固めを行う。
9. 「景観に配慮した道路付属物等整備ガイドライン(道路のデザインに関する検討委員会)」により適切な色彩を選定する。

標識柱において基本とする色彩の標準マンセル値

基本色名称	標準マンセル値	基本色名称	標準マンセル値
ダークブラウン(こげ茶)	10YR 2.0/1.0 程度	ダークグレー(濃灰色)	10YR 3.0/0.2 程度
グレーベージュ(薄灰茶色)	10YR 6.0/1.0 程度	オフグレー(薄灰色)	5Y 7.0/0.5 程度

〔設計表示方法〕

SP － S －(　)－ a × b　　N＝(　)

板寸法　　設計基数

種　別

表示例

ＳＰ－Ｓ－ 1 － 800 × 1300　　Ｎ ＝ 10

備　考

意見NO.36
(以下、対象工種)
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1
・片持型標識(F2)その1

意見NO.38
(以下、対象工種)
・素掘側溝
・自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・集水桝・街渠桝
・アーチﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ
・吹付法枠
・境界標
・電線共同溝(CCBOX)
・円形落差工
・管理橋
・L型側溝
・縁石
・ｱｽﾌｧﾙﾄｶｰﾌﾞ及び集・排水
・地下排水
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
・歩道用ガードパイプ
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
・歩道用ｺﾝｸﾘｰﾄ防護柵(RC)
・ｺﾝｸﾘｰﾄ壁型防護柵
・落石防止柵
・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1～3
・片持型標識(F2)その1～6
・伸縮継手(V型)
・橋梁用排水装置(その1～2)
・車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
・車道用高欄(ｺﾝｸﾘｰﾄ製)
・飛雪防止柵
・落下物防止網
・橋梁下部工検査路
・橋梁上部工検査路
・鋼製雪崩予防柵30°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵35°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵40°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵45°(その1～2)
・PC雪崩予防柵(その1)
・鋼製雪崩予防柵
・PC雪崩防護柵
・PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
・PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
・鋼製せり出し防止柵
・PCせり出し防護柵
・地吹雪防止柵
・路側流雪溝
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
・消雪用ポンプ室(プレキャスト)
・消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
・融雪舗装版
・情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
・光ケーブル用埋設鋲
・中央帯工

積算上の注意事項

(控え頁)

工　　種	共通編・河川編・道路編　各工種

改 正 理 由	設計ミスを防止するため、添付図に単位を記載する	改　正 現　行	

現　　行

共ーＩ－8

名称	素 掘 側 溝	工種記号	EU1～EU2

〔適用条件〕
1. 水田の場合はＥＵ１を、畑地等などの場合はＥＵ２を標準とする。

〔仕　　様〕
1. 畦畔は十分突き固めを行う。
2. 表面は平滑に仕上げる。
3. 流水系統を考慮に入れて、必要な縦断勾配を付け、地盤との取合を配慮する。

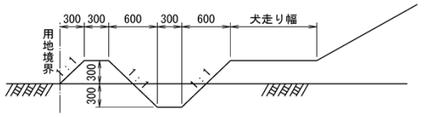
〔設計表示方法〕

ＥＵ（　）　　Ｌ ＝（　）ｍ
1.2の種別　　設計延長

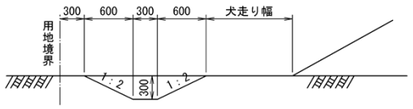
表示例

ＥＵ 2　　Ｌ ＝ 100 ｍ

ＥＵ１



ＥＵ２



注）　寸法は標準値を示す。

改　　正

19 改　共ーＩ－8

名称	素 掘 側 溝	工種記号	EU1～EU2

（単位：mm）

〔適用条件〕
1. 水田の場合はＥＵ１を、畑地等などの場合はＥＵ２を標準とする。

〔仕　　様〕
1. 畦畔は十分突き固めを行う。
2. 表面は平滑に仕上げる。
3. 流水系統を考慮に入れて、必要な縦断勾配を付け、地盤との取合を配慮する。

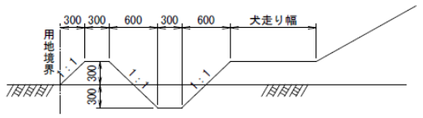
〔設計表示方法〕

ＥＵ（　）　　Ｌ ＝（　）ｍ
1.2の種別　　設計延長

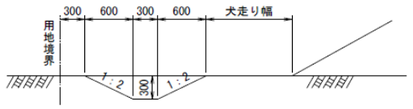
表示例

ＥＵ 2　　Ｌ ＝ 100 ｍ

ＥＵ１



ＥＵ２



注）　寸法は標準値を示す。

備　　考

意見NO.38

(以下、対象工種)
・素掘側溝
・自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・集水桝・街渠桝
・アーチﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ
・吹付法枠
・境界標
・電線共同溝(CCBOX)
・円形落差工
・管理橋
・L型側溝
・縁石
・ｱｽﾌｧﾙﾄｶｰﾌﾞ及び集・排水
・地下排水
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
・歩道用ガードパイプ
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
・歩道用ｺﾝｸﾘｰﾄ防護柵(RC)
・ｺﾝｸﾘｰﾄ壁型防護柵
・落石防止柵
・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1～3
・片持型標識(F2)その1～6
・伸縮継手(Ｖ型)
・橋梁用排水装置(その1～2)
・車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
・車道用高欄(ｺﾝｸﾘｰﾄ製)
・飛雪防止柵
・落下物防止網
・橋梁下部工検査路
・橋梁上部工検査路
・鋼製雪崩予防柵30°（その1～2)
・鋼製雪崩予防柵35°（その1～2)
・鋼製雪崩予防柵40°（その1～2)
・鋼製雪崩予防柵45°（その1～2)
・PC雪崩予防柵(その1)
・鋼製雪崩予防柵
・PC雪崩防護柵
・PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
・PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
・鋼製せり出し防止柵
・PCせり出し防護柵
・地吹雪防止柵
・路側流雪溝
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
・消雪用ポンプ室(プレキャスト)
・消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
・融雪舗装版
・情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
・光ケーブル用埋設鋲
・中央帯工

積算上の注意事項	

（控え頁）

工　　種	共通編　鋼板蓋

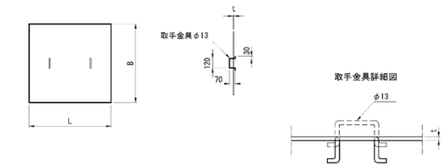
改 正 理 由	JIS規格に併せ修正する	改　正 現　行	

現　　行

03 改　共－Ⅲ－2

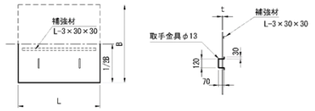
名称	鋼 板 蓋	工種記号	S

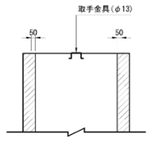
A　型



注）鋼板蓋の板厚は下表より適宜選定する。

B　型





鋼板蓋選定表

B＼L	300	400	500	600	700	800	900	1000
300	板厚 t＝9mm							
400								
500								
600								
700	板厚 t＝12mm							
800								
900								
1000								

注）B=80cm以上の場合はB型を使用する。

〔適用条件〕

1.　輪荷重がかからない箇所の集水桝に使用する。

〔仕　　様〕

1.　鋼板は縞鋼板を原則とする。

2.　使用鋼材はSS400、取手金具φ13はSR235とする。ただし、それ以外を使用する場合は同等品以上とする。

3.　防錆処理は原則としてJIS K 5623 1種(鉛系さび止めペイント1種)2回塗りとする。また、特に防錆力を必要とする場合や歩道内等再塗装の困難な場所については溶融亜鉛メッキを施すものとし、その規格はJIS H 8641 HDZ55による。

4.　歩道内に設ける縞鋼板蓋の取手金具や取手穴は歩行に支障のない様に配慮する。
なお、歩道内で通学路部等は浮き上がり防止対策を施すこととする。

5.　設置方法は落蓋型を原則とし、やむをえず掛蓋とする場合は、山形鋼でズレ止めを付ける。

6.　B型を使用する場合は、山形鋼で補強する。

7.　乗入れ部や除雪車等により自動車荷重の影響を考慮する必要のある箇所は、コンクリート蓋を原則とする。ただし、鋼製格子蓋も使用することができる。

〔設計表示方法〕

S－　B(　)－　L(　)－　t(　)　　N＝(　)枚
幅　長さ　板厚　1箇所当り枚数

A型－B

B型－B／2

表示例

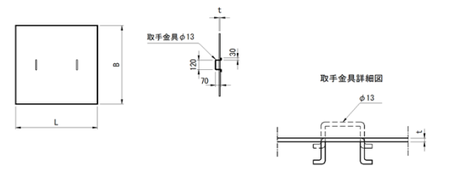
S－B500－L500－t12　　N＝1　枚

改　　正

19 改　共－Ⅲ－2

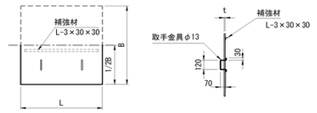
名称	鋼 板 蓋	工種記号	S

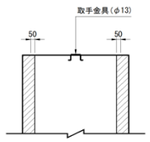
A　型　（単位：mm）



注）鋼板蓋の板厚は下表より適宜選定する。

B　型





鋼板蓋選定表

B＼L	300	400	500	600	700	800	900	1000
300	板厚 t＝9mm							
400								
500								
600								
700	板厚 t＝12mm							
800								
900								
1000								

注）B=80cm以上の場合はB型を使用する。

〔適用条件〕

1.　輪荷重がかからない箇所の集水桝に使用する。

〔仕　　様〕

1.　鋼板は縞鋼板を原則とする。

2.　使用鋼材はSS400、取手金具φ13はSR235とする。ただし、それ以外を使用する場合は同等品以上とする。

3.　防錆処理は原則としてJIS K 5674 1種(鉛・クロムフリーさび止めペイント1種)2回塗りとする。また、特に防錆力を必要とする場合や歩道内等再塗装の困難な場所については溶融亜鉛メッキを施すものとし、その規格はJIS H 8641 HDZ55による。

4.　歩道内に設ける縞鋼板蓋の取手金具や取手穴は歩行に支障のない様に配慮する。
なお、歩道内で通学路部等は浮き上がり防止対策を施すこととする。

5.　設置方法は落蓋型を原則とし、やむをえず掛蓋とする場合は、山形鋼でズレ止めを付ける。

6.　B型を使用する場合は、山形鋼で補強する。

7.　乗入れ部や除雪車等により自動車荷重の影響を考慮する必要のある箇所は、コンクリート蓋を原則とする。ただし、鋼製格子蓋も使用することができる。

〔設計表示方法〕

S－　B(　)－　L(　)－　t(　)　　N＝(　)枚
幅　長さ　板厚　1箇所当り枚数

A型－B

B型－B／2

表示例

S－B500－L500－t12　　N＝1　枚

備　　考

意見NO.39

意見NO.38
(以下、対象工種)

・素掘側溝
・自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・集水桝・街渠桝
・アーチボックスカルバート
・吹付法枠
・境界標
・電線共同溝(CCBOX)
・円形落差工
・管理橋
・L型側溝
・縁石
・ｱｽﾌｧﾙﾄｶｰﾌﾞ及び集・排水
・地下排水
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
・歩道用ガードパイプ
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
・歩道用ｺﾝｸﾘｰﾄ防護柵(RC)
・ｺﾝｸﾘｰﾄ壁型防護柵
・落石防止柵
・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
・インターロッキングﾌﾞﾛｯｸ舗装
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1～3
・片持型標識(F2)その1～6
・伸縮継手(V型)
・橋梁用排水装置(その1～2)
・車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
・車道用高欄(ｺﾝｸﾘｰﾄ製)
・飛雪防止柵
・落下物防止網
・橋梁下部工検査路
・橋梁上部工検査路
・鋼製雪崩予防柵30°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵35°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵40°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵45°(その1～2)
・PC雪崩予防柵(その1)
・鋼製雪崩予防柵
・PC雪崩防護柵
・PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
・PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
・鋼製せり出し防止柵
・PCせり出し防護柵
・地吹雪防止柵
・路側流雪溝
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
・消雪用ポンプ室(プレキャスト)
・消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
・融雪舗装版
・情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
・光ケーブル用埋設鋲
・中央帯工

積算上の注意事項	

（控え頁）

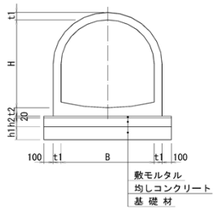
工　　種	共通編　アーチボックスカルバート

改 正 理 由	記載ミスを修正する	改　正 現　行	

現　　行

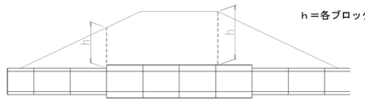
⑬ 改　共－Ⅳ－9

名称	アーチボックスカルバート	工種記号	ABX



呼び名	寸法 (mm) B	H	t1	t2	製品長 (mm)	基礎寸法 h1	h2	許容最大土被り (m) I型	II型	特厚型
1000x1000	100	1000	120 150	130 180	2000	150	100	5.6	7.8	14.7
1200x1200	1200	1200	130 160	140 190	2000			5.3	7.7	13.7
1500x1500	1500	1500	140 180	160 210	2000	200	150	4.9	6.7	12.1
1800x1800	1800	1800	160 200	170 230	2000			4.4	6.3	10.6
2000x2000	2000	2000	170 220	190 270	1500			4.1	6.1	10.8
2200x2200	2200	2200	180 230	200 290	1500			3.4	5.9	10.4
2500x2500	2500	2500	190 250	210 320	1500	250	200	3.3	5.2	10.0
2800x2800	2800	2800	210 270	230 330	1000			3.3	4.6	10.2
3000x3000	3000	3000	220 280	240 360	1000			3.2	4.6	9.8

注1 幅に対する高さ比(H/B)は、0.7,0.8,0.9,1.0,1.1,1.2がある。
注2 t1,t2寸法について、上段はⅠ・Ⅱ型を、下段は特厚型を示す。
注3 許容最大土被りは、活荷重T-25，土単位重量＝18kN/m^3で算出。



土被りの考え方

〔適用条件〕

1. 道路下に埋設する水路、通路用に使用する。
2. 最小土被りを0.5mとする。

〔仕　様〕

1. 設計、施工および製品の品質・出来高基準は下記による。
   ① 土木用コンクリート製品設計便覧(共－16)
   ② 道路土工　カルバート工指針((社)日本道路協会)
   ③ アーチカルバート設計施工要覧(日本アーチカルバート工業会)
2. 構造計算によりⅠ型・Ⅱ型・特厚型を決定すること。
3. 基礎材は再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
   なお、施工幅は施工に必要な余裕幅(5～10cm)をもたせる。
4. 均しコンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	65%以下	高炉セメント(B種)

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

※〔ボックスカルバートとアーチカルバートの選定について〕
土被りが大きくなると、ボックスカルバートよりもアーチカルバートが一般的に経済性において有利となる。
また、アーチカルバートはボックスカルバートに比べ、土被りの適用範囲が大きくなっている。(最大約15m)
アーチカルバートを選定するに当たっては、ボックスカルバートと経済性などの比較検討を行った上で選定することが望ましい。

〔設計表示方法〕

ABX － B(　) － H(　) － (　)　　L＝(　)m
内幅　内高　タイプ　設計延長

表示例

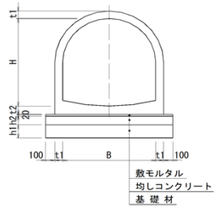
ABX － B 1800 － H 1800 － Ⅱ型　L＝20.0 m

改　　正

⑲ 改　共－Ⅳ－9

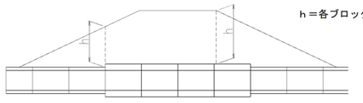
名称	アーチボックスカルバート	工種記号	ABX

(単位：mm)



呼び名	寸法 (mm) B	H	t1	t2	製品長 (mm)	基礎寸法 h1	h2	許容最大土被り (m) I型	II型	特厚型
1000x1000	1000	1000	120 150	130 180	2000	150	100	5.6	7.8	14.7
1200x1200	1200	1200	130 160	140 190	2000			5.3	7.7	13.7
1500x1500	1500	1500	140 180	160 210	2000	200	150	4.9	6.7	12.1
1800x1800	1800	1800	160 200	170 230	2000			4.4	6.3	10.6
2000x2000	2000	2000	170 220	190 270	1500			4.1	6.1	10.8
2200x2200	2200	2200	180 230	200 290	1500			3.4	5.9	10.4
2500x2500	2500	2500	190 250	210 320	1500	250	200	3.3	5.2	10.0
2800x2800	2800	2800	210 270	230 330	1000			3.3	4.6	10.2
3000x3000	3000	3000	220 280	240 360	1000			3.2	4.6	9.8

注1 幅に対する高さ比(H/B)は、0.7,0.8,0.9,1.0,1.1,1.2がある。
注2 t1,t2寸法について、上段はⅠ・Ⅱ型を、下段は特厚型を示す。
注3 許容最大土被りは、活荷重T-25，土単位重量＝18kN/m^3で算出。



土被りの考え方

〔適用条件〕

1. 道路下に埋設する水路、通路用に使用する。
2. 最小土被りを0.5mとする。

〔仕　様〕

1. 設計、施工および製品の品質・出来高基準は下記による。
   ① 土木用コンクリート製品設計便覧(共－16)
   ② 道路土工　カルバート工指針((社)日本道路協会)
   ③ アーチカルバート設計施工要覧(日本アーチカルバート工業会)
2. 構造計算によりⅠ型・Ⅱ型・特厚型を決定すること。
3. 基礎材は再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
   なお、施工幅は施工に必要な余裕幅(5～10cm)をもたせる。
4. 均しコンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	65%以下	高炉セメント(B種)

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

※〔ボックスカルバートとアーチカルバートの選定について〕
土被りが大きくなると、ボックスカルバートよりもアーチカルバートが一般的に経済性において有利となる。
また、アーチカルバートはボックスカルバートに比べ、土被りの適用範囲が大きくなっている。(最大約15m)
アーチカルバートを選定するに当たっては、ボックスカルバートと経済性などの比較検討を行った上で選定することが望ましい。

〔設計表示方法〕

ABX － B(　) － H(　) － (　)　　L＝(　)m
内幅　内高　タイプ　設計延長

表示例

ABX － B 1800 － H 1800 － Ⅱ型　L＝20.0 m

備　　考

意見NO.45

意見NO.38
(以下、対象工種)
・素掘側溝
・自由勾配側溝(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・集水桝・街渠桝
・アーチボックスカルﾊﾞｰﾄ
・吹付法枠
・境界標
・電線共同溝(CCBOX)
・円形落差工
・管理橋
・L型側溝
・縁石
・ｱｽﾌｧﾙﾄｶｰﾌﾞ及び集・排水
・地下排水
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(C種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SB種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ(SC種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(A種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(B種)
・路側用ｶﾞｰﾄﾞｹｰﾌﾞﾙ(C種)
・歩道用ガードパイプ
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(横断防止柵)
・歩道用ｶﾞｰﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟ(転落防止柵)
・歩道用ｺﾝｸﾘｰﾄ防護柵(RC)
・ｺﾝｸﾘｰﾄ壁型防護柵
・落石防止柵
・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装
・単柱型標識
・二柱型標識
・片持型標識(F1)その1～3
・片持型標識(F2)その1～6
・伸縮継手(Ｖ型)
・橋梁用排水装置(その1～2)
・車道用高欄(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ製)(その1～2)
・車道用高欄(ｺﾝｸﾘｰﾄ製)
・飛雪防止柵
・落下物防止網
・橋梁下部工検査路
・橋梁上部工検査路
・鋼製雪崩予防柵30°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵35°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵40°(その1～2)
・鋼製雪崩予防柵45°(その1～2)
・PC雪崩予防柵(その1)
・鋼製雪崩予防柵
・PC雪崩防護柵
・PCｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ(その1～2)
・PCｽﾉｰｼｪﾙﾀｰ(その1～4)
・鋼製せり出し防止柵
・PCせり出し防護柵
・地吹雪防止柵
・路側流雪溝
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)歩道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(現場打ち)車道部
・消雪ﾊﾟｲﾌﾟ(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ)継手部
・消雪用ポンプ室(プレキャスト)
・消雪用ポンプ室(現場打ち)(1)～(2)
・融雪舗装版
・情報ﾎﾞｯｸｽ(ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ)
・光ケーブル用埋設鋲
・中央帯工

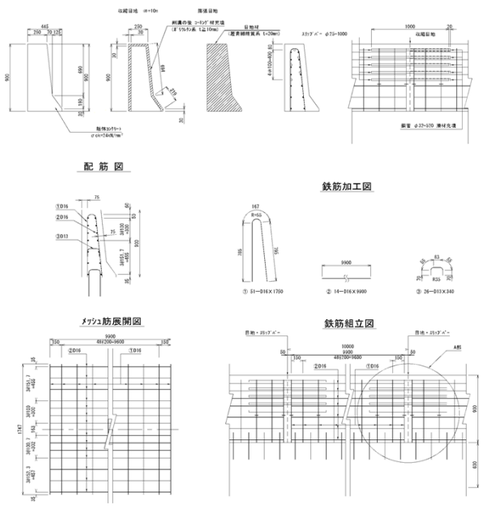
積算上の注意事項		(控え頁) 1／1

工　　種	道路編　車道用高欄（コンクリート製）

改 正 理 由	指針の改定により設計手法及び構造を見直す	改　正 現　行	

現　　行

03 改　道－Ⅴ－13



鉄筋質量表　（10m当り）

種別	径	長さ(mm)	本数	単位重量(kg/m)	1本当りの質量(kg)	質量(kg)	摘要
①	D16	1750	51	1.560	2.730	139.2	
②	D16	9900	14	1.560	15.444	216.2	—
③	D13	340	26	0.995	0.338	8.8	
				D16	(SD345)	355.4	
				D13	(SD345)	8.8	
				合計		364.2	

※SD295Aを使用する場合は、別途検討を行う。

名称	車道用高欄　（コンクリート製）	工種記号	BGW

〔設計条件〕

単位質量	鉄筋コンクリート	24.5	kN/m³
	コンクリート	23.0	kN/m³
過載荷重		10.0	kN/m²
衝突荷重		58	kN
雪荷重		9	kN/m²
許容応力度	コンクリート設計基準強度	24	N/mm²
	コンクリート許容圧縮応力度	8	N/mm²
	コンクリート付着応力度	1.6	N/mm²
	鉄筋の許容引張応力度	200	N/mm²

〔適用条件〕

1. 剛性防護柵SB種に適用する。
2. 当図は、施工延長50m以上の場合に適用する。
3. 当図の設計条件以外の場合は、荷重、路側条件を勘案し設計する。
4. アンカー鉄筋については、別途検討を行う。
   （アンカー鉄筋ピッチは、床版配筋ピッチに合わせる。）

〔仕　様〕

1. コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
24	8cm	25mm	55%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 膨張目地間隔は50m程度とし、厚さ20mm程度の瀝青繊維質目地板を使用する。

数 量 表　（10m当り）

躯体コンクリート（24N/mm²）（m³）	躯体型枠面積（m²）	収縮目地（m）
2.789	18.430	2.093

〔設計表示方法〕

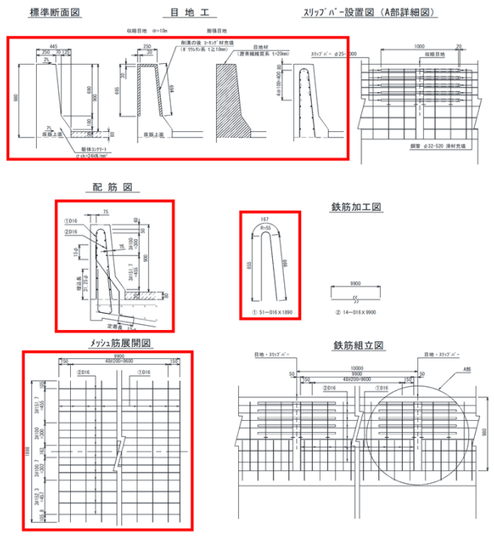
BGW　　L ＝（　）m
　　└設計延長

表示例

BGW　　L ＝ 100 m

改　　正

19 改　道－Ⅴ－13



鉄筋質量表　（10m当り）

種別	径	長さ(mm)	本数	単位重量(kg/m)	1本当りの質量(kg)	質量(kg)	摘要
①	D16	1890	51	1.560	2.948	150.3	
②	D16	9900	14	1.560	15.444	216.2	—
				D16	(SD345)	366.5	
				合計	(SD345)	366.5	

名称	車道用高欄　（コンクリート製）	工種記号	BGW

〔設計条件〕

単位質量	鉄筋コンクリート	24.5	kN/m³
衝突荷重		58	kN
強度の特性値	コンクリート設計基準強度	24	N/mm²
	コンクリート圧縮応力度の制限値	8	N/mm²
	コンクリート付着応力度の基本値	1.6	N/mm²
	鉄筋の引張応力度の基本値	200	N/mm²

〔適用条件〕

1. 剛性防護柵SB種に適用する。
2. 当図は、施工延長50m以上の場合に適用する。
3. 当図の設計条件以外の場合は、荷重、路側条件を勘案し設計する。
4. アンカー鉄筋については、別途検討を行う。
   （アンカー鉄筋ピッチは、床版配筋ピッチに合わせる。）

〔仕　様〕

1. コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
24	8cm	25mm	55%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 膨張目地間隔は50m程度とし、厚さ20mm程度の瀝青繊維質目地板を使用する。

数 量 表　（10m当り）

躯体コンクリート（24N/mm²）（m³）	躯体型枠面積（m²）	収縮目地（m）
3.145	20.03	1.639

〔設計表示方法〕

BGW　　L ＝（　）m
　　└設計延長

表示例

BGW　　L ＝ 100 m

備　　考

意見NO.50

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　　種	共通編　石張ブロック

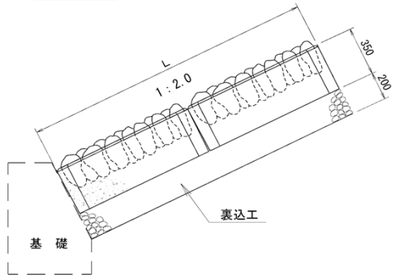
改 正 理 由	土木用コンクリート製品設計便覧に併せて規格を変更する	改　正 現　行	

現　　行

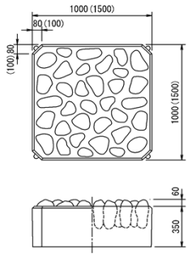
⑬ 改　共－Ⅵ－1

名称	石 張 ブ ロ ッ ク	工種記号	SK

断 面 図

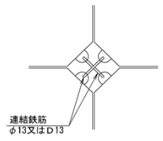


石 張 ブ ロ ッ ク



参　考

連結部



〔適用条件〕

1.　護岸法覆工の景観を考慮する箇所等に使用する。
2.　法長、その他の施工条件を勘案して、1.0㎥ブロック、2.25㎥ブロックを適宜選定する。

〔仕　　様〕

1.　構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧(共－21)」による。
2.　ブロックは∩型の連結鉄筋（φ13又はD13）を用いて連結し、連結部はモルタルで充填するものとする。
3.　裏込材は、再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。なお、裏面の土質が裏込材に相当する場合は裏込工を施工しないものとする。

〔設計表示方法〕

ＳＫ －Ｗ（　）－Ｂ（　）　　Ａ＝（　）㎡

控長　　設計面積

ブロック面寸法

表示例

ＳＫ － Ｗ 1000 －Ｂ 350　　Ａ＝　1000　㎡

材料表（1㎥ブロック）100㎥当り

名　　称	規　　格	単位	数　量	摘　　要
石張ブロック　1.0㎥	1.0×1.0×0.35	個	100	
連　結　筋	φ13　or　D13	個	198	
間 詰 モ ル タ ル		㎥	0.7	連結部の充填
裏　込　材	40mm以下	㎥	20	

材料表（1.5㎥ブロック）81㎥当り

名　　称	規　　格	単位	数　量	摘　　要
石張ブロック　1.5㎥	1.5×1.5×0.35	個	36	
連　結　筋	φ13　or　D13	個	70	
間 詰 モ ル タ ル		㎥	0.25	連結部の充填
裏　込　材	40mm以下	㎥	16.2	

（注）石張り裏面の土質が裏込材料に相当すると見られる時は、裏込工は施工しない。

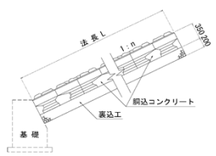
改　　正

⑲ 改　共－Ⅵ－1

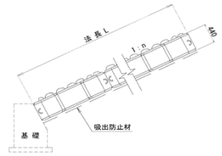
名称	石 張 ブ ロ ッ ク	工種記号	SK

断 面 図

Ⅰ型

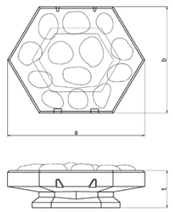


Ⅱ型

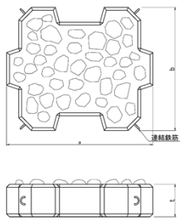


石張ブロック

Ⅰ型



Ⅱ型



単位（mm）

呼び名	寸　法		
	a	b	t
Ⅰ型	1300	1000	350
Ⅱ型	1980	1650	440

〔適用条件〕

1.　護岸法覆工の景観を考慮する箇所等に使用する。
2.　法長、その他の施工条件を勘案して、Ⅰ型、Ⅱ型を適宜選定する。
3.　法勾配(割上)緩勾配の法覆工に使用する。

〔仕　　様〕

1.　構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧(共－21)」による。
2.　Ⅱ型ブロックは∩型の連結鉄筋（φ13又はD13）を用いて連結し、連結部はモルタルで充填するものとする。
3.　裏込材は、再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。なお、裏面の土質が裏込材に相当する場合は裏込工を施工しないものとする。
4.　胴込コンクリートに使用するコンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm	25mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格と同等以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

〔設計表示方法〕

ＳＫ（　）－ａ（　）－ｂ（　）　　Ａ＝（　）㎡

種別　　ブロック幅　ブロック高　　設計面積

表示例

ＳＫ Ⅰ － a1300 － b1000　　Ａ＝　1000　㎡

材料表（100㎥当り）

名　　称	規　　格	単位	数量	摘　　要
石張ブロックⅠ型	1300×1000×350	㎥	100	
胴込コンクリート	18-8-25	㎥	11.7	
裏　込　材	40mm以下	㎥	20.0	

材料表（87㎥当り）

名　　称	規　　格	単位	数量	摘　　要
石張ブロックⅡ型	1980×1600×440	個	31	
連　結　筋	φ19	個	31	
間　詰　土	現地発生材	㎥	2.95	連結部・クリアランス部の充填
吸 出 防 止 材	t=10mm	㎥	87.0	

（注）ブロック1個当たり、体積1.25㎥を超え1.37㎥以下、型枠面積5.58㎥を超え6.50㎥以下である。
（現場製作の場合に適用。）

備　　考

積算上の注意事項	

（控え頁）

工　　種	共通編　大型平張ブロック張

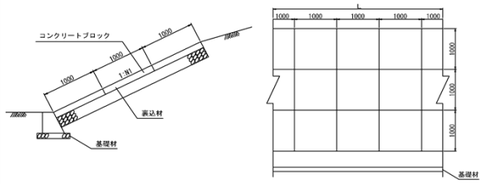
改 正 理 由	土木用コンクリート製品設計便覧に併せて規格を変更する	改　正 現　行	

現　　行

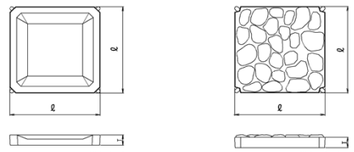
⑬ 改　共－Ⅵ－5

名称	大型平張ブロック張	工種記号	FB

側面図　　正面図



Ⅰ型　　Ⅱ型



単位(mm)

呼び名	寸法 ℓ	寸法 T
120	1000	120
150	1000	150
200	1000	200
250	1000	250

単位 (mm)

呼び名	寸法 ℓ	寸法 T
100	1000	100
120	1000	120
150	1000	150

〔適用条件〕

1.　法面の風化や浸食を防止するために使用する。

2.　法勾配1割より緩勾配の法覆工に使用する。

〔仕　　様〕

1.　構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧(共－26)」による。
2.　基礎コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント(B種)

ただし、上表配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

3.　裏込材の厚さは15～20cm程度とする。
4.　基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。
5.　裏込材及び基礎材は再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分な締固めを行う。
6.　水抜きパイプは必要に応じ、2～3㎡に1箇所(VP-50)を標準とする。この場合は、吸出し防止材(30cm×30cm×2cm)を使用する。

〔設計表示方法〕

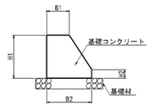
ＦＢ－(　)－Ｔ(　)－(　)－Ｎ　　Ｌ＝(　)ｍ　Ａ＝(　)㎡

タイプ　Ⅰ:無地　Ⅱ:玉石模様
ブロック厚
裏込め厚
前面勾配
設計延長
設計面積

表示例

ＦＢ－Ⅰ－Ｔ120－200－Ｎ2.0　　Ｌ＝100ｍ　Ａ＝500㎡

基　礎



基礎寸法表　　単位(mm)

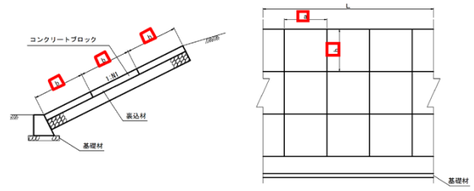
	H1	H2	B1	B2
1:1.0	400	80	200	520
1:1.5	400	0	200	460
1:1.8	400	0	200	420
1:2.0	400	0	200	400

改　　正

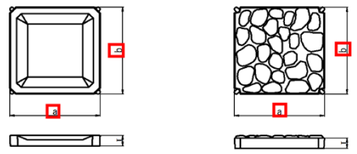
⑲ 改　共－Ⅵ－5

名称	大型平張ブロック張	工種記号	FB

側面図　　正面図



Ⅰ型　　Ⅱ型



単位 (mm)

呼び名	寸法 a	寸法 b	寸法 T
Ⅰ型	1000	1000	120～250
Ⅱ型	950～	950～	100～150

〔適用条件〕

1.　法面の風化や浸食を防止するために使用する。

2.　法勾配1割より緩勾配の法覆工に使用する。

〔仕　　様〕

1.　構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧(共－26)」による。
2.　基礎コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント(B種)

ただし、上表配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

3.　裏込材の厚さは15～20cm程度とする。
4.　基礎材の厚さは10cm程度とし、施工幅は施工に必要な余裕(5～10cm)をもたせる。
5.　裏込材及び基礎材は再生砕石(RC-40)を標準とし、施工にあたっては十分な締固めを行う。
6.　水抜きパイプは必要に応じ、2～3㎡に1箇所(VP-50)を標準とする。この場合は、吸出し防止材(30cm×30cm×2cm)を使用する。

〔設計表示方法〕

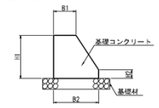
ＦＢ－(　)－Ｔ(　)－(　)－Ｎ　　Ｌ＝(　)ｍ　Ａ＝(　)㎡

タイプ　Ⅰ:無地　Ⅱ:玉石模様
ブロック厚
裏込め厚
前面勾配
設計延長
設計面積

表示例

ＦＢ－Ⅰ－Ｔ120－200－Ｎ2.0　　Ｌ＝100ｍ　Ａ＝500㎡

基　礎



基礎寸法表　　単位(mm)

	H1	H2	B1	B2
1:1.0	400	80	200	520
1:1.5	400	0	200	460
1:1.8	400	0	200	420
1:2.0	400	0	200	400

備　　考

積算上の注意事項	

（控え頁）

工　　種	共通編　擬石型ブロック積

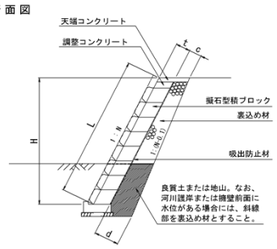
改 正 理 由	土木用コンクリート製品設計便覧に併せて規格を変更する	改　正 現　行	

現　　行

⑬ 改　共－Ⅵ－7

名称	擬石型ブロック積	工種記号	RG

標 準 断 面 図



〔適用条件〕

1. 設置場所の状況を勘案し、緑化環境の再生に配慮する場合に使用する。
2. 擬石型積ブロックは空積を基本とする。

〔仕　様〕

1. 構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧（共－28）」による。
2. 天端、調整及び基礎コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

3. 裏込材及び基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
4. 比較的良く締まった地山の掘削部に使用する場合の裏込めは、等厚（30～40cm）とし、設計で明示する。
5. 基礎の縦断勾配は最大で3%とし、3%を超える場合は最小根入深及び経済性等を勘案し、階段状に施工する。
6. 基礎材の厚さは概ね10cmとし、施工幅は施工に必要な余裕（5～10cm）をもたせる。
7. 背面土砂の流出を防止するために吸出防止材を敷設する。

〔設計表示方法〕

R G － H（　）－ U（　）－ N（　）　L ＝（　）m　A ＝（　）㎡

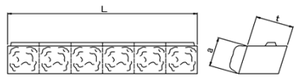
直高　土の種類　前面勾配　設計延長　設計面積

表示例

R G － H 4.0 － U 1 － N 0.5　L ＝ 50.0 m　A ＝ 224 ㎡

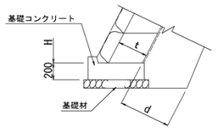
寸 法 表　　単位(mm)

H（直高：m）	L（法長） N（前面勾配） 1：0.3	1：0.4	1：0.5	裏込材厚さ U 1（裏込め土が良好な場合） c	d 1：0.3	1：0.4	1：0.5	U 2（裏込め土が普通な場合） c	d 1：0.3	1：0.4	1：0.5
1.0	1,044	1,077	1,118	200	325	320	317	300	424	421	416
2.0	－	2,154	2,236	200	－	413	406	300	－	513	505
3.0	－	3,231	3,354	200	－	506	495	300	－	606	595
4.0	－	－	4,472	200	－	－	585	300	－	－	684
5.0	－	－	5,590	200	－	－	674	300	－	－	774



寸　法（mm）		
L	a	t
2,500	400	350～

基 礎

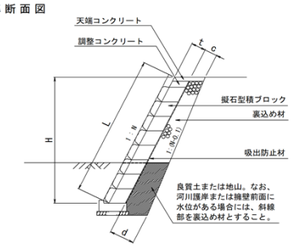


改　　正

⑲ 改　共－Ⅵ－7

名称	擬石型ブロック積	工種記号	RG

標 準 断 面 図



〔適用条件〕

1. 設置場所の状況を勘案し、緑化環境の再生に配慮する場合に使用する。
2. 擬石型積ブロックは空積を基本とする。

〔仕　様〕

1. 構造規格は、「土木用コンクリート製品設計便覧（共－28）」による。
2. 天端、調整及び基礎コンクリートの配合規格は、下表のとおりとする。

呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類
18	8cm又は12cm	25mm又は40mm	60%以下	高炉セメント（B種）

ただし、上記配合規格以上のものを使用する場合は、同等とみなす。

3. 裏込材及び基礎材は再生砕石（RC-40）を標準とし、施工にあたっては十分締固めを行う。
4. 比較的良く締まった地山の掘削部に使用する場合の裏込めは、等厚（30～40cm）とし、設計で明示する。
5. 基礎の縦断勾配は最大で3%とし、3%を超える場合は最小根入深及び経済性等を勘案し、階段状に施工する。
6. 基礎材の厚さは概ね10cmとし、施工幅は施工に必要な余裕（5～10cm）をもたせる。
7. 背面土砂の流出を防止するために吸出防止材を敷設する。

〔設計表示方法〕

R G － H（　）－ U（　）－ N（　）　L ＝（　）m　A ＝（　）㎡

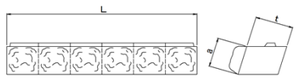
直高　土の種類　前面勾配　設計延長　設計面積

表示例

R G － H 4.0 － U 1 － N 0.5　L ＝ 50.0 m　A ＝ 224 ㎡

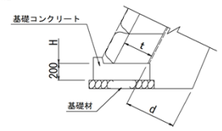
寸 法 表　　単位(mm)

H（直高：m）	L（法長） N（前面勾配） 1：0.3	1：0.4	1：0.5	裏込材厚さ U 1（裏込め土が良好な場合） c	d 1：0.3	1：0.4	1：0.5	U 2（裏込め土が普通な場合） c	d 1：0.3	1：0.4	1：0.5
1.0	1,044	1,077	1,118	200	325	320	317	300	424	421	416
2.0	－	2,154	2,236	200	－	413	406	300	－	513	505
3.0	－	3,231	3,354	200	－	506	495	300	－	606	595
4.0	－	－	4,472	200	－	－	585	300	－	－	684
5.0	－	－	5,590	200	－	－	674	300	－	－	774



寸　法（mm）		
L	a	t
500～2500	280～	350以上

基 礎



備　　考

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　　種	共通編　自由勾配側溝蓋

改 正 理 由	土木用コンクリート製品設計便覧に併せて規格を変更する	改　正 現　行	

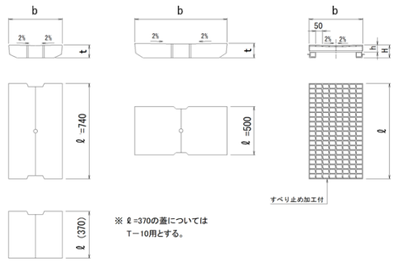
現　　行

⑬ 改　共－Ⅰ－11

名称	自由勾配側溝蓋	工種記号	C－C－T C－G－T

コンクリート（プレキャスト）蓋(C)　　グレーチング蓋 (G)

300,400,500,600タイプ　　800,1000タイプ



※ ℓ =370の蓋については
T－10用とする。

溝幅B (mm)	コンクリート蓋 (C) 車道用(T) b (mm)	t (mm)	ℓ (mm)	参考質量 (kg)	グレーチング蓋 (G) 車道用(T) b (mm)	h (mm)	H (mm)	ℓ (mm)	参考質量 (kg)
300	400	99	740	68	400	50	95	740	28.9
400	500	110		99	600	65	125		48.7
500	600	131		134	700	75	140		62.3
600	700	147		175	920	100	160	495	77.3
800	920	169	500	170	1130	75(R1)	180	498	126.4
1000	1130	191		230					

※グレーチング蓋の1000型については、細目使用である。

〔適用条件〕

1. 一般車両（T-25「後輪１軸荷重100kN」）を考慮する箇所に使用する。
2. 現地の地形及び状況を考慮し、１．の条件箇所以外にも必要に応じて使用する。

〔仕　　様〕

1. コンクリート（プレキャスト）蓋の構造規格は「土木用コンクリート製品設計便覧（共－６）」による。
   これによれない場合は協議事項とする。
2. 蓋は、設置箇所の状況、流出量及び清掃管理等を勘案し、鋼製格子蓋の設置間隔を適宜決定する。
   ただし、狭い歩道の場合は、蓋そのものが歩道有効幅員となるので、歩行に支障ない様に配慮する。
3. ハネ上がり防止対策が必要な場合は、ボルトなどで固定するものとする。
4. 蓋の構造規格は側溝本体の規格に応じて決める。
5. 鋼製格子蓋（グレーチング）の塗装は、溶融亜鉛メッキ JIS H 8641 とする。
6. 蓋掛かりは、概ね50mmとする。
7. 掛け形式は落とし蓋式とする。

〔設計表示例〕

C－（　）－T－B（　）－ℓ（　）　　N＝（　）枚
種別　溝幅　製品長　設計枚数

C：コンクリート蓋
G：グレーチング蓋

表示例

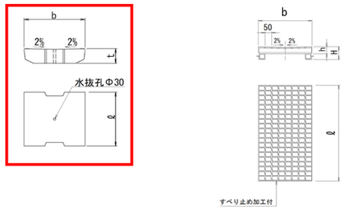
C－C－T－B800－ℓ740　　N＝80枚

改　　正

⑲ 改　共－Ⅰ－11

名称	自由勾配側溝蓋	工種記号	C－C－T C－G－T

コンクリート（プレキャスト）蓋(C)　　グレーチング蓋 (G)



溝幅B (mm)	コンクリート蓋 (C) 車道用(T) b (mm)	t (mm)	ℓ (mm)	参考質量 (kg)	グレーチング蓋 (G) 車道用(T) b (mm)	h (mm)	H (mm)	ℓ (mm)	参考質量 (kg)
300	400	95	500	42	400	50	95	995	35.0
400	500	110		61	500	65	110		49.5
500	600	125		84	600	80	125		69.2
600	700	140		111	700	100	140		95.1
800	920	160		168	910	130	160		103.6
1000	1130	180		232	1120	150	180		134.8

参考値であり、詳細は「土木用コンクリート製品設計便覧［標準図集］」を確認すること。

〔適用条件〕

1. 一般車両（T-25「後輪１軸荷重100kN」）を考慮する箇所に使用する。
2. 現地の地形及び状況を考慮し、１．の条件箇所以外にも必要に応じて使用する。

〔仕　　様〕

1. コンクリート（プレキャスト）蓋の構造規格は「土木用コンクリート製品設計便覧（共－６）」による。
   これによれない場合は協議事項とする。
2. 蓋は、設置箇所の状況、流出量及び清掃管理等を勘案し、鋼製格子蓋の設置間隔を適宜決定する。
   ただし、狭い歩道の場合は、蓋そのものが歩道有効幅員となるので、歩行に支障ない様に配慮する。
3. ハネ上がり防止対策が必要な場合は、ボルトなどで固定するものとする。
4. 蓋の構造規格は側溝本体の規格に応じて決める。
5. 鋼製格子蓋（グレーチング）の塗装は、溶融亜鉛メッキ JIS H 8641 とする。
6. 蓋掛かりは、概ね50mmとする。
7. 掛け形式は落とし蓋式とする。

〔設計表示例〕

C－（　）－T－B（　）－ℓ（　）　　N＝（　）枚
種別　溝幅　製品長　設計枚数

C：コンクリート蓋
G：グレーチング蓋

表示例

C－C－T－B400－ℓ500　　N＝80枚

備　　考

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1